

## 1. 全体概要について

### (1) 調査の概要

- ① 実施日 令和2年12月1日(火)～12月15日(火)の期間のうち1日
- ② 調査を受検した児童・生徒数

	小学校(92校)			中学校(43校)	
	4年	5年	6年	1年	2年
国語	6,850	7,013	7,061	—	—
算数・数学	6,854	7,007	7,058	—	—
質問紙調査	6,971	7,123	7,164	6,450	6,688

### ③ 調査内容

- ◇ 教科に関する調査：国語・算数(小学校)
- ◇ 児童生徒質問紙調査：学習意欲・学習方法・学習環境・生活に関する調査(小中学校)
- ◇ 学校質問紙調査：指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等に関する調査(小中学校)
- ◇ 学年質問紙調査：指導方法に関する取組等に関する調査(小中学校)

### (2) 各教科・各学年平均正答率及び全国参考値(%)

	小学校		
	4年	5年	6年
国語	75.8	80.1	77.4
(全国参考値)	63.4	71.4	72.7
算数	79.6	67.4	74.0
(全国参考値)	70.8	62.2	66.4

全国参考値を100とした場合の堺市の平均正答率(%)

	4年	5年	6年
	国語	119.6	112.2
算数	112.4	108.4	111.4

※全国参考値とは、本調査問題と同一問題を受検した全国の都道府県・市町村のデータを集約したものである。(1問につき5万人から15万人の母数)

#### 表記について

- ◇ → 良好な結果・分析
- ◆ → 課題の見られる結果・分析
- → 対応
- ・ → その他

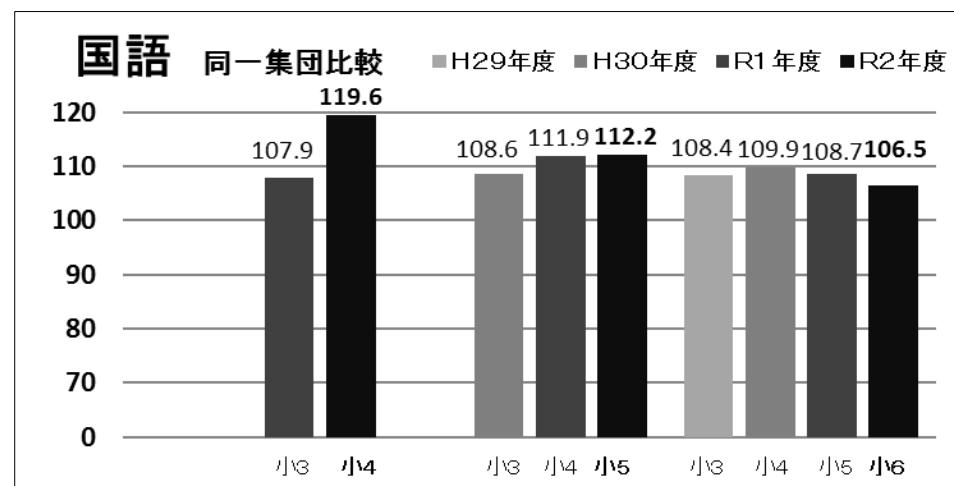
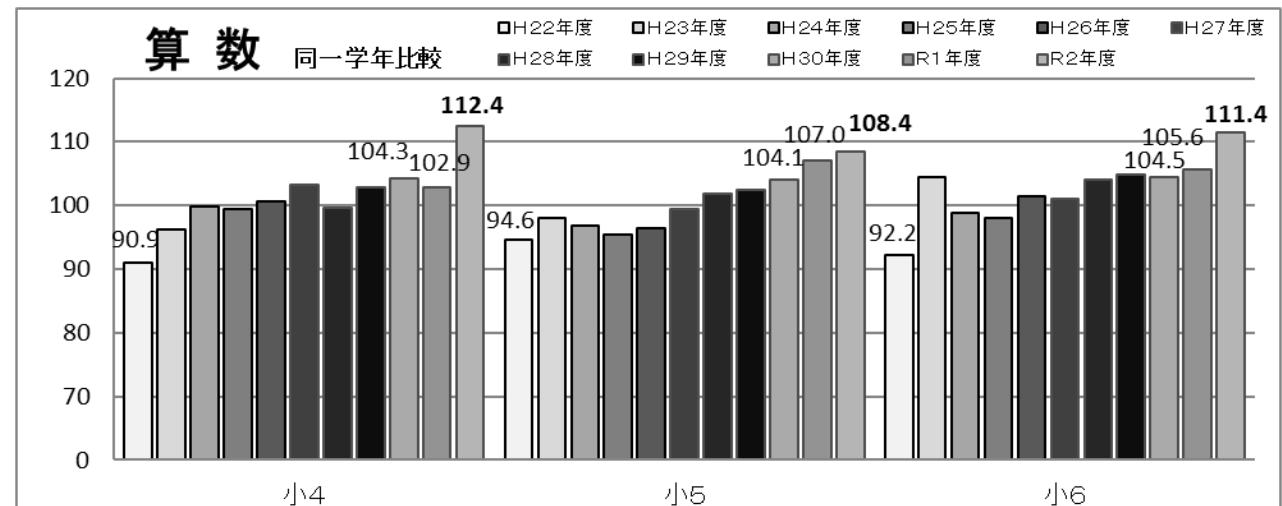
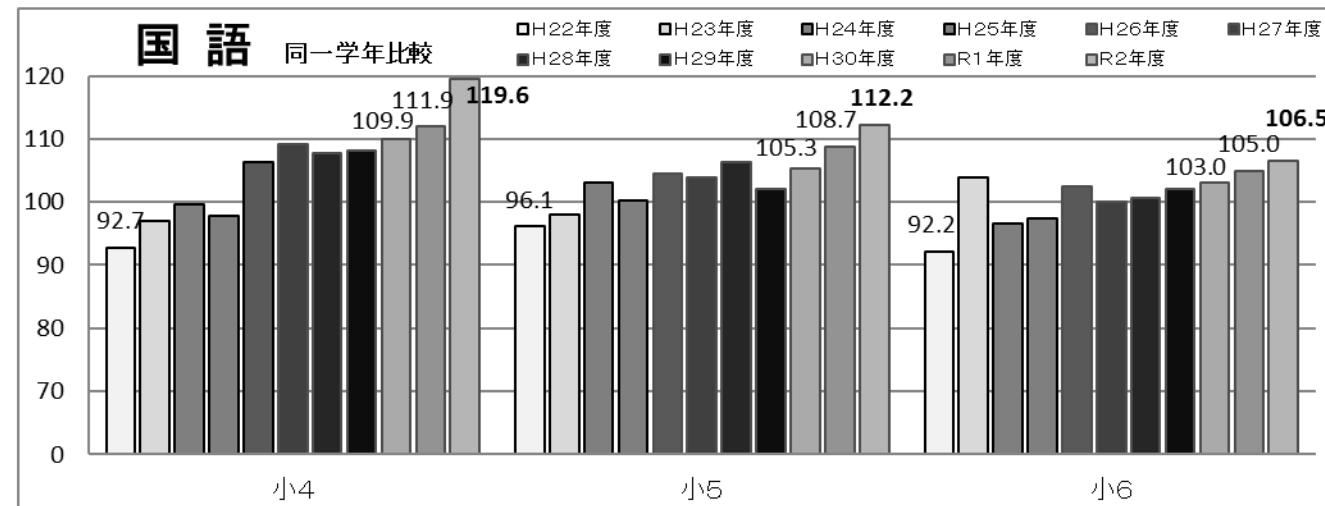
図等の質問紙表記(右上)

児童生徒質問紙 →

学年質問紙 →

学校質問紙 →

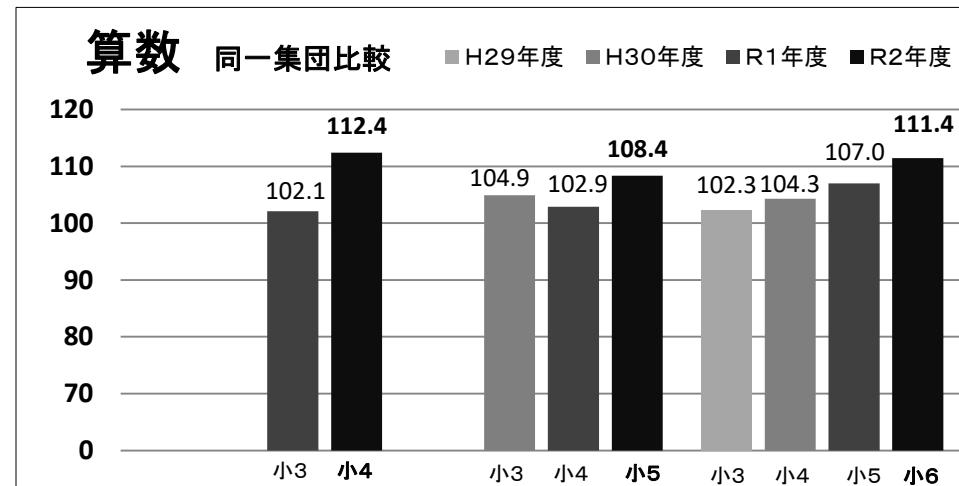
### (3) 各教科別の経年比較(全国参考値を100とした場合の堺市の平均正答率)



◇同一学年比較では、小4、小5、小6で昨年度を上回った。

◇同一集団比較では、小4で最もポイントが高い。

◆同一集団比較では、小6は2年続けて昨年度を下回った。

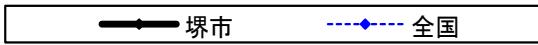


◇同一学年比較では、小4、小5、小6で昨年度を上回った。

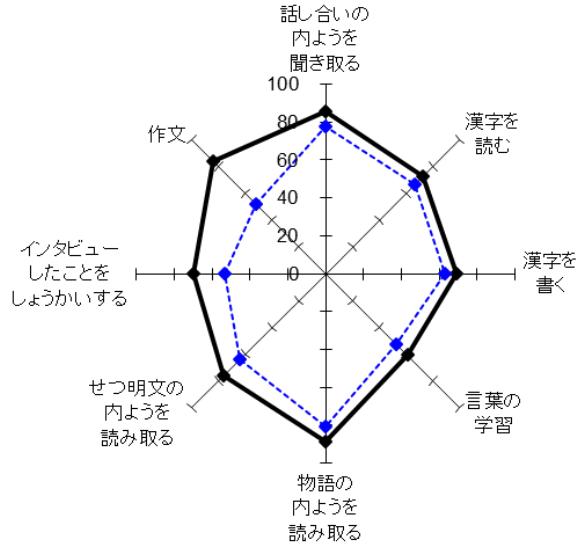
◇同一集団比較では、小4、小5、小6において、昨年度を上回った。

# 1. 全体概要について

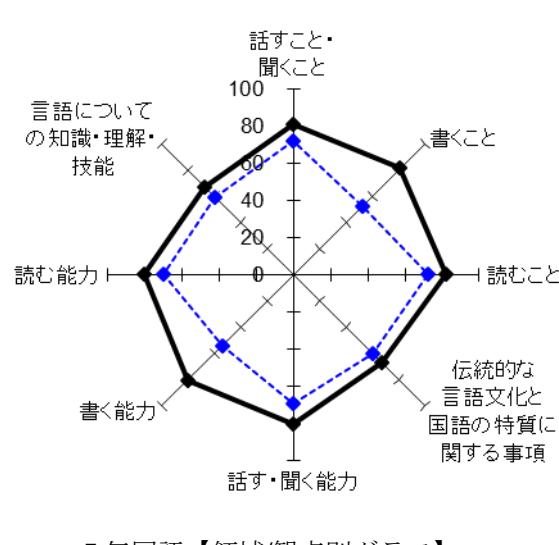
## (4) 各教科別の成績概要



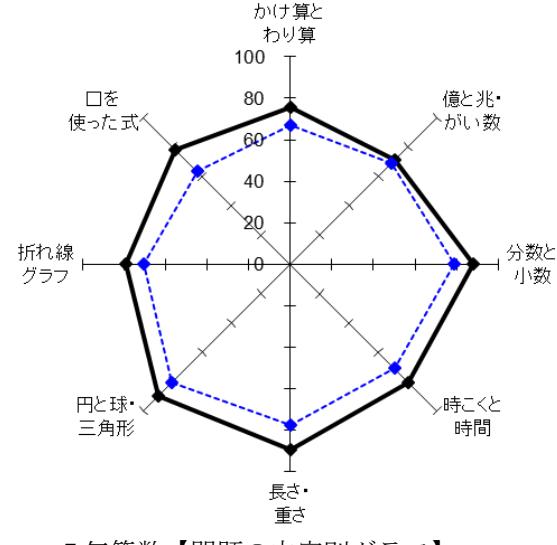
4年国語【問題の内容別グラフ】



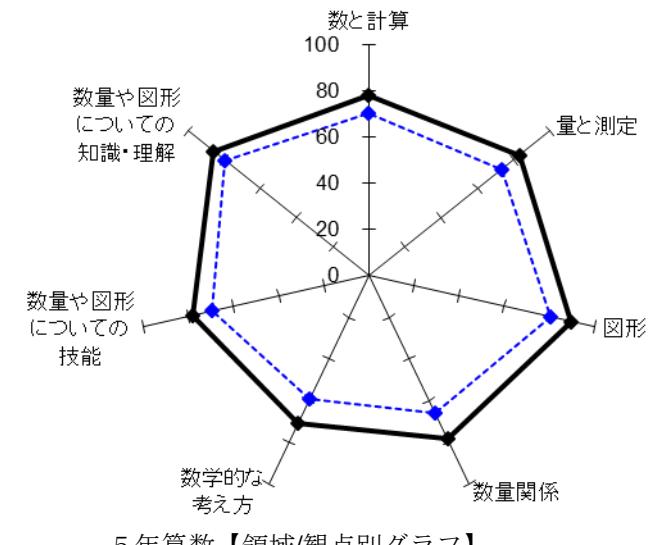
4年国語【領域/観点別グラフ】



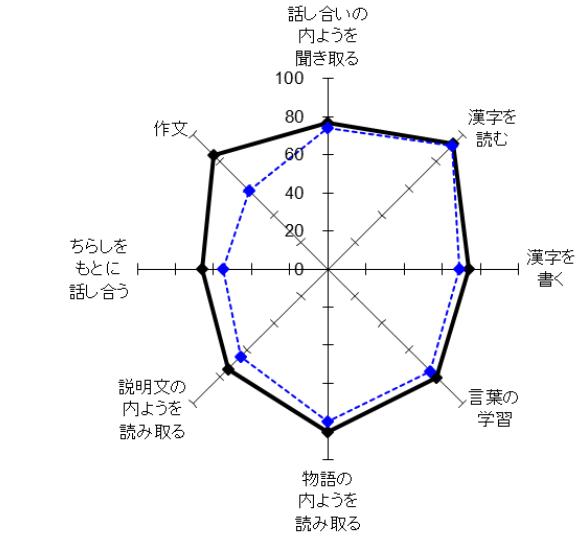
4年算数【問題の内容別グラフ】



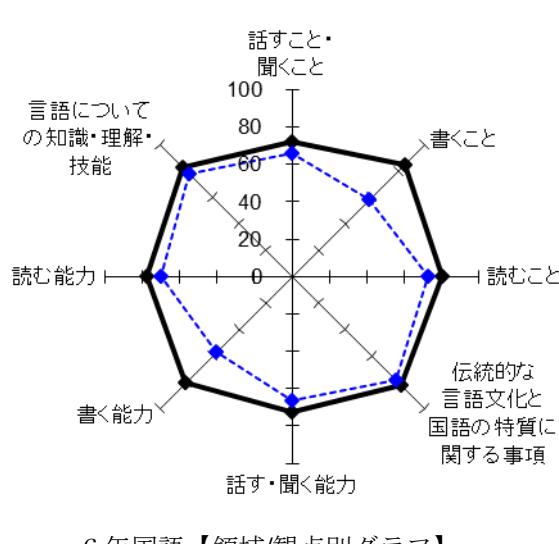
4年算数【領域/観点別グラフ】



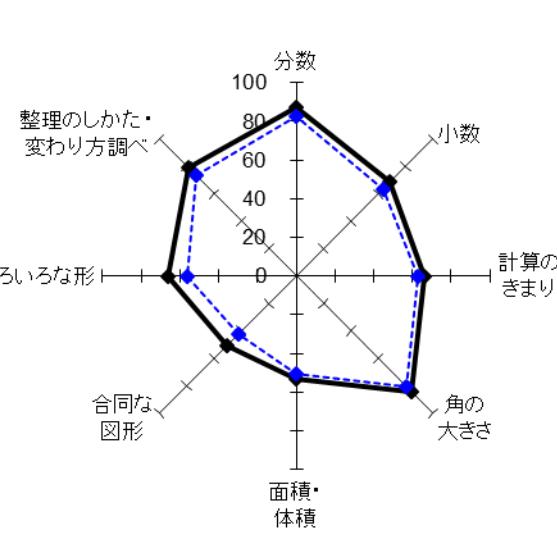
5年国語【問題の内容別グラフ】



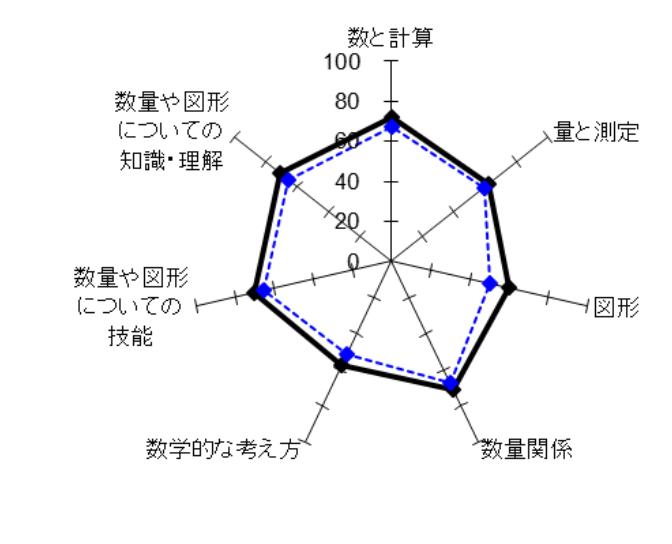
5年国語【領域/観点別グラフ】



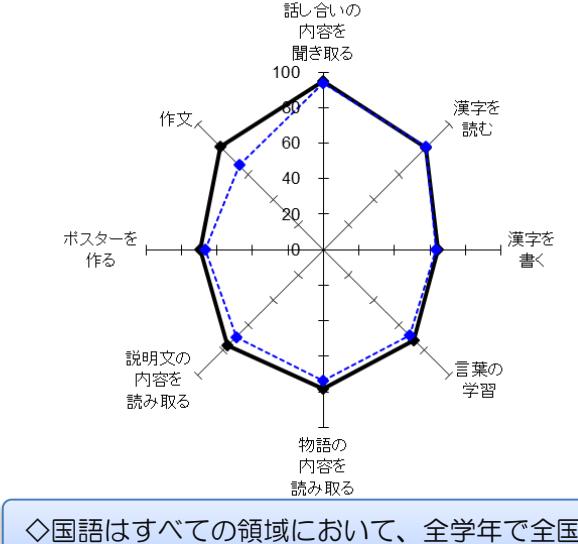
5年算数【問題の内容別グラフ】



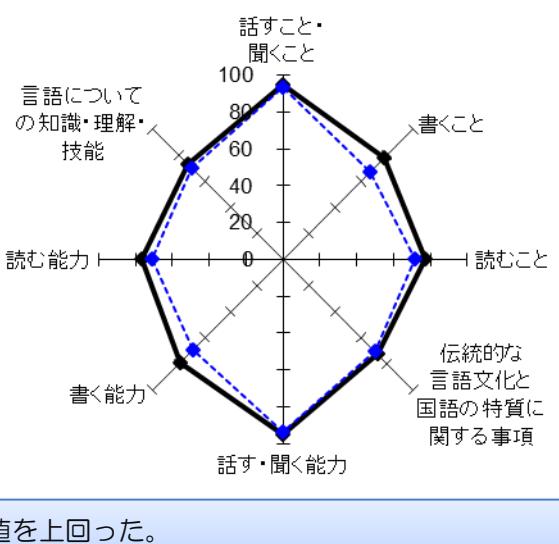
5年算数【領域/観点別グラフ】



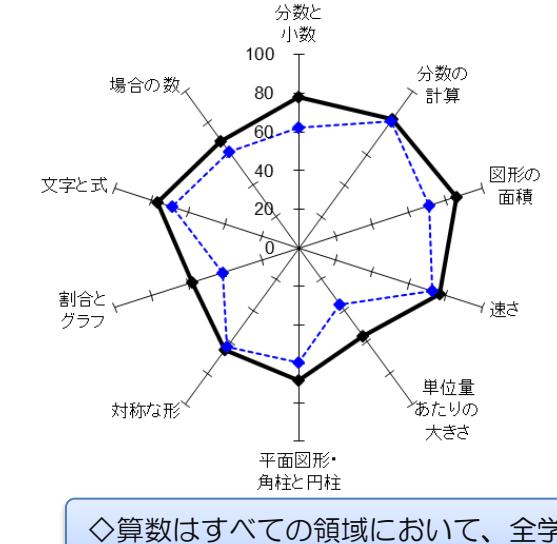
6年国語【問題の内容別グラフ】



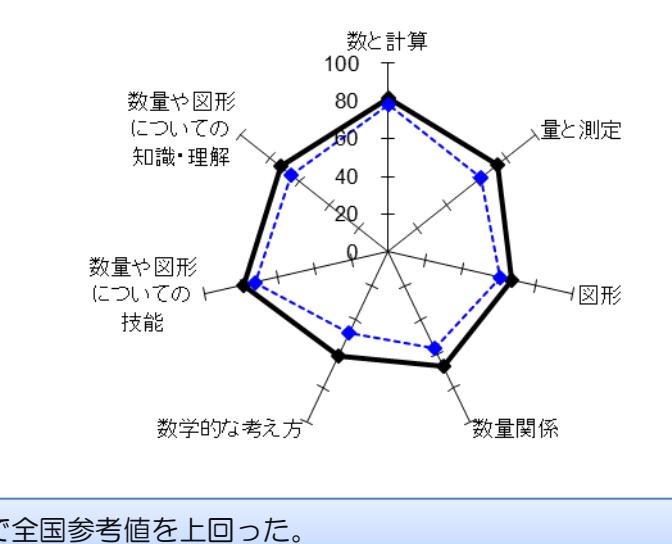
6年国語【領域/観点別グラフ】



6年算数【問題の内容別グラフ】



6年算数【領域/観点別グラフ】



◇国語はすべての領域において、全学年で全国参考値を上回った。  
◆小6で漢字を読む問題の正答率が全国参考値より1.2%下回った。

◇算数はすべての領域において、全学年で全国参考値を上回った。  
◆小6で分数の計算問題の正答率が全国参考値と同程度であった。

# 2. 学力向上に関する質問紙調査

一堺版 授業スタンダードと「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点からの授業改善

## 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

各教科の特質等に応じて、「1単位時間の構成」や「単元(題材)の学習のまとまりの構成」に読み換えることが重要

## 堺版 授業スタンダード(抜粋)

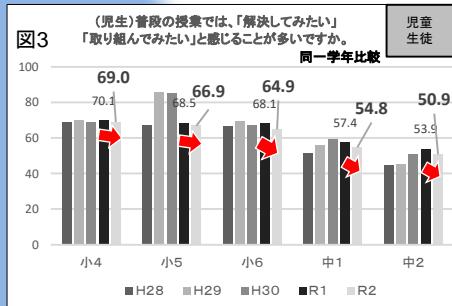
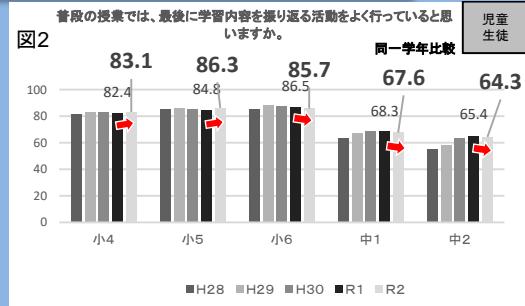
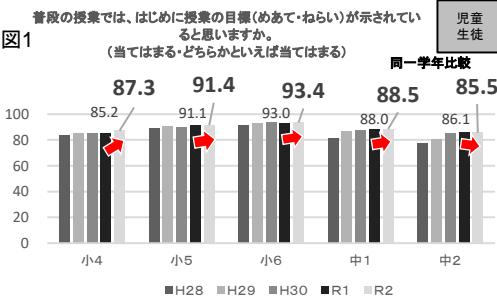
- 1 学習課題をつかむ 目的を明確にし、学習への期待と意欲を高める
- 2 解決の見通しをもつ 既習事項を想起し、解決への見通しをもつ
- 3 自分で考え、表現する 根拠をもって書く、作る、操作しながら考える
- 4 集団で考え、表現する 発表し、聞くことで考えを深め、広げる
- 5 学習をふりかえる わかったことを確かめ、学んだことが活用できるよさを実感する

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く  
知識・技能の習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び



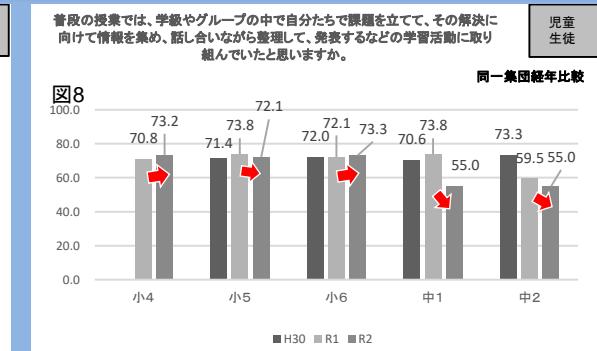
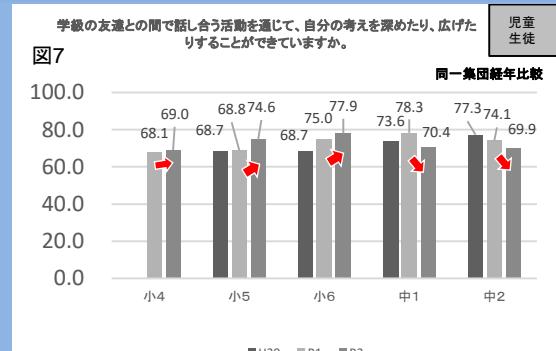
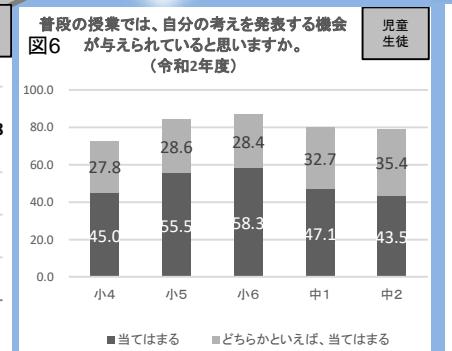
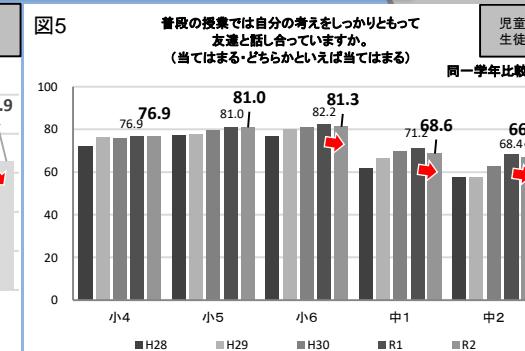
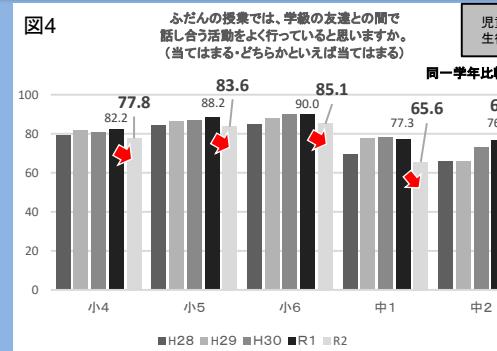
- ◇近年、授業の目標が示されていると感じている児童生徒の割合は増加している。特に中学校において、授業の目標が示されていると感じている生徒は増加しており、見通しを持って学習に取り組むことができる工夫がされている。(図1)
- ◆中学校において、近年授業を振り返る活動は増加しているが、今年度は中1、2年生とも減少しているとともに小学校に比べると割合が低くなっている。(図2)
- ◆授業において「解決してみたい」「取り組んでみたい」と感じている児童生徒は、今年度小学校、中学校ともに減少している。(図3)
- 児童生徒の実態を把握して、単元でつきたい資質能力を明確にし、「どうして～なんだろ。知りたいな」「解決したいな」と学ぶことに興味や関心をもつことができるような授業の工夫・教材の工夫を行うことが大切である。
- 1時間の授業や題材や単元のまとまりで、自己の学習を振り返り、自分の学びや変容等を自覚することで、「～の場合はどうなるのかな」と新たな問いが生まれ、「こんな時にも使えそうだ」と他での活用を考えたりするような、学びが連続する振り返りを行いたい。

## 【対話的な学び】

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

## 【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。



### 指導のポイント

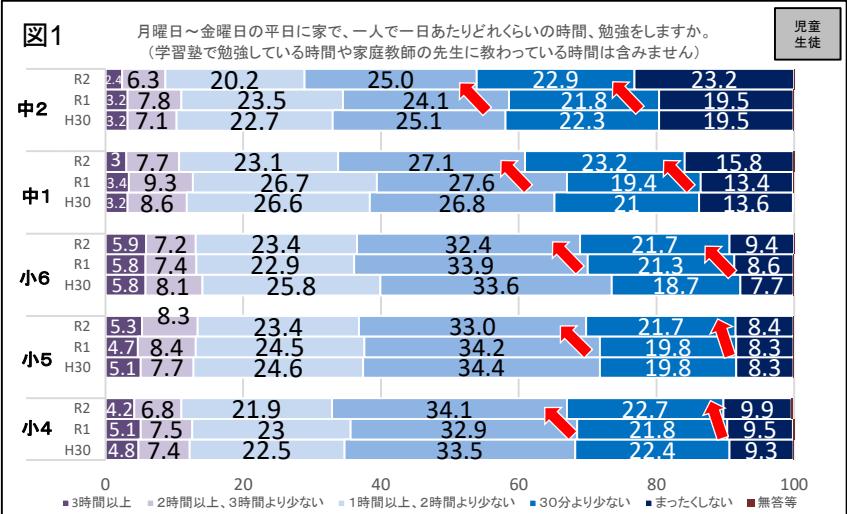
- ◆今年度は、「話し合う活動をよく行っている」と回答した児童生徒の割合が全学年で昨年度より減少した。(図4)
- ◆「自分の考えをしっかりとって友達と話し合っている」と回答した児童生徒の割合は、小6～中2において昨年度よりやや減少した。(図5)
- 「自分の考えを伝えたい」「友達の意見はどうだろう」と児童生徒が周りに対話したいと思える課題を立て、授業という限られた時間内で各教科特有の見方・考え方を働かせるためには、対話する場面をどこに設定するかが重要である。
- 対話により自己の考えを広げたり深めたりするには、自分の考えをもつことが大切である。そのために、児童生徒が自分の考えをもつ時間を十分に確保するようにする。また、自分の考えをわかりやすく他者に説明したり、自分の考えと比べながら他者の考えを聞くことが大切である。

### 指導のポイント

- 「話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりすることができている」と感じている児童生徒の割合は、経年比較をすると小4、小5、小6は改善しているが、中1、中2は減少している。(図7)
- ◆「普通の授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合は、小4では昨年度を上回り、小5、小6ではほぼ横ばいであるが、中1、中2では昨年度より減少しており、差が広がっている。(図8)
- 問題を見いだして解決策を考えるためには、児童生徒が「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問を持ち、これまで学んだことを活用したり、他者と協働することが大切である。
- 児童生徒が各教科の「見方・考え方」を働かせながら知識・技能を繰り返し活用できるように、教科横断的に学習する場面などを設定することが大切である。

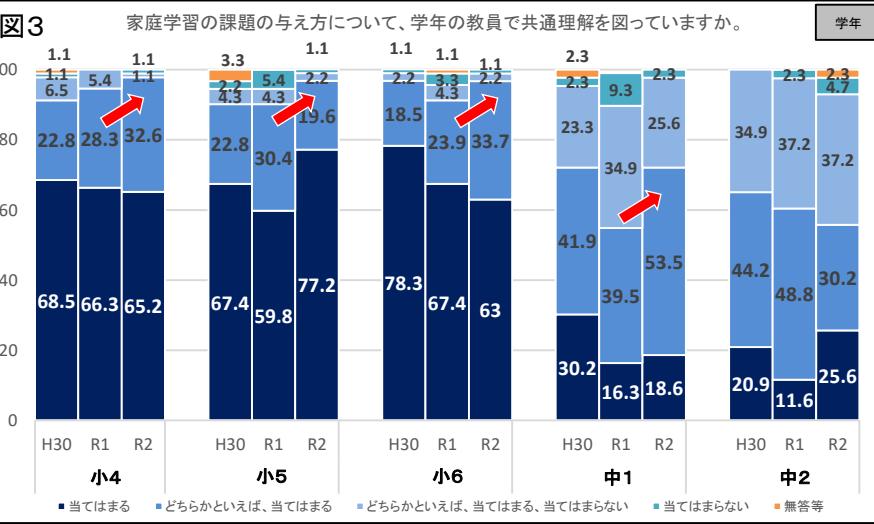
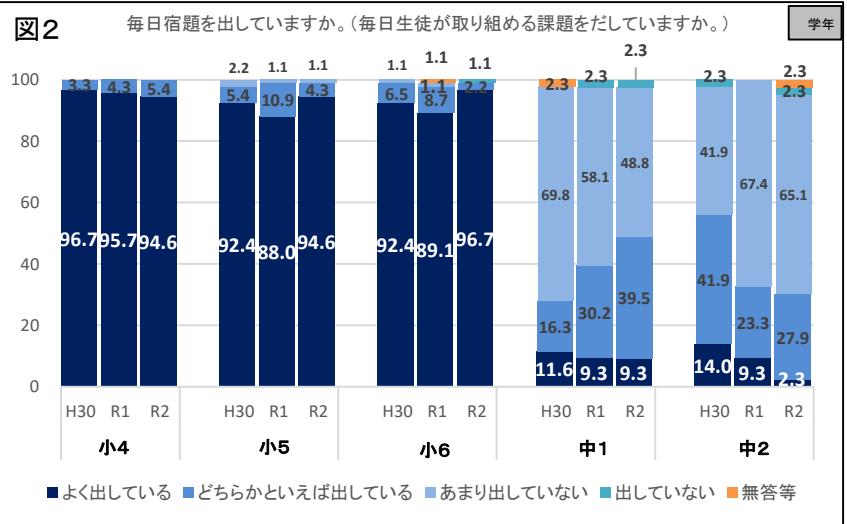
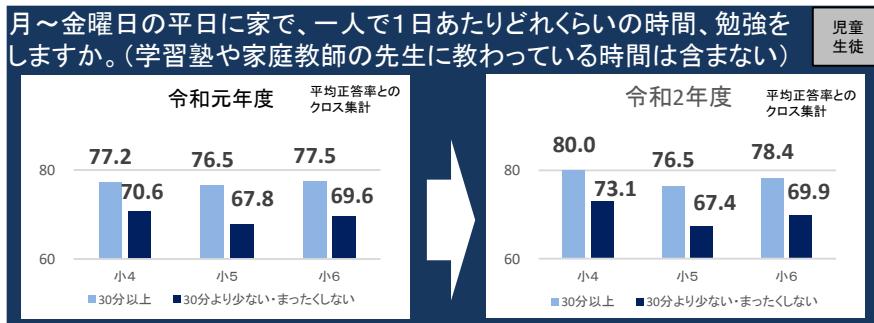
# 3. 家庭学習・学力低位層に関する質問紙調査 「家庭での学習状況の格差が拡大・低位層への影響は小」

## 自律的な学びを支える「家庭学習」習慣の定着と取組内容の充実



**■平日の家庭学習時間の課題拡大**  
**家庭学習時間を増やす取組と学習の個性化へ**

- 近年、平日にまったく家庭学習をしない児童生徒の割合は、全国平均のおよそ2倍となっており課題である。
- ◆今年度は、全学年で「まったくしない」と回答した児童生徒の割合が増加するとともに、全体的に平日の家庭学習の時間が減少している。
- ◆特に中学生の家庭学習時間の減少が顕著で、課題である。(図1)
- ◇一方、学年質問紙(教員回答分)においては、中学校2年生を除いて毎日の宿題、家庭学習の与え方の共通理解の取組はこれまでと比較すると改善している。(図2,3)
- 改善している取組に加え、授業と関連付けた家庭学習の充実を図る。
- 「自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合の減少(5.コロナ禍の影響参照)から、学習内容や学習方法を自分で選択できるような「学習の個性化」に向けた取組の充実を図ることが重要である。



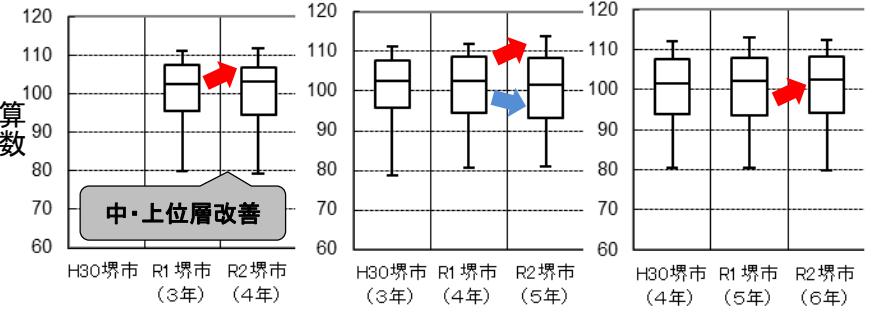
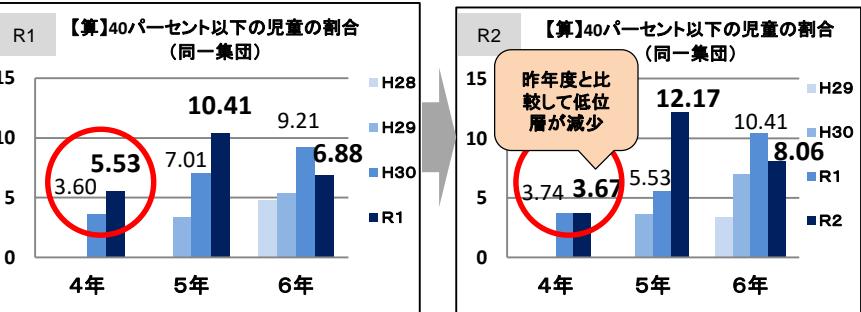
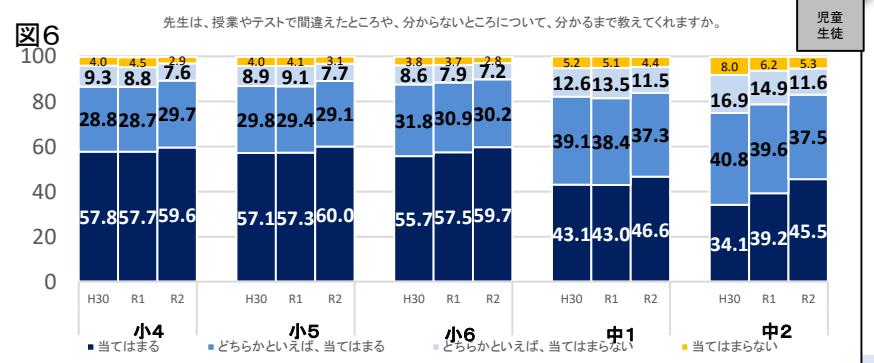
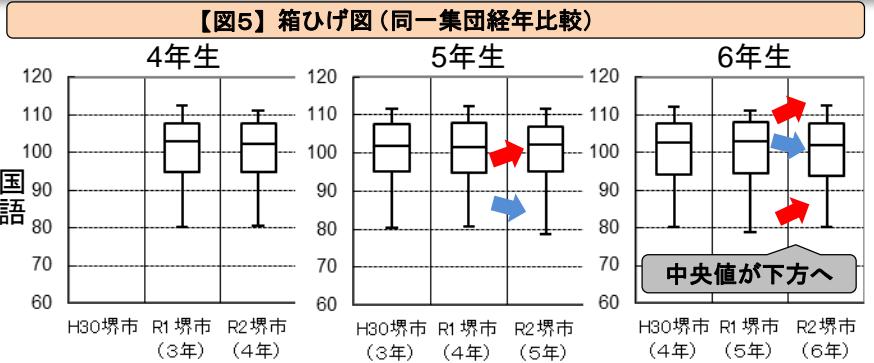
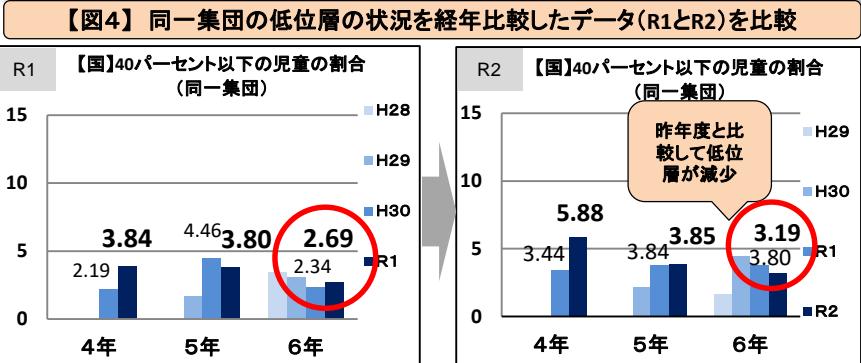
↓各項目における回答者数合計(小4～中2)を示した表(単位、人)

	R2(小)	R1(小)	R2-R1(小)	R2(中)	R1(中)	R2-R1(中)
3時間以上	1,090	1,117	-27	354	436	-82
2時間以上、3時間より少ない	1,568	1,667	-99	914	1,121	-207
1時間以上、2時間より少ない	4,869	5,049	-180	2,842	3,292	-450
30分以上、1時間より少ない	7,055	7,240	-185	3,417	3,397	20
30分より少ない	4,682	4,515	167	3,028	2,696	332
まったくしない	1,964	1,895	69	2,569	2,141	428
合計	21,228	21,483	-255	13,124	13,083	41

**■家庭学習時間と学力の相関がより強く**  
 ・家庭学習時間と平均正答率とのクロス集計を、昨年度と同一学年比較をすると、その相関は強くなっている。

**■家庭学習が30分より少ないと回答した児童生徒数が増加**  
 ◆令和元年度と令和2年度の児童生徒の回答者数を比較すると、平日の学習時間が30分より少ないと回答した値が増加している。  
 ◆特に中学生の増加数が著しく、家庭での学習状況の格差が広がっていることが考えられる。(上図参照)

## 学力低位層の割合と指導の充実



**■わかるまで教えてくれる割合は増加・低位層の影響小**

◇「図4・5」から学力低位層の状況を経年で比較すると、ほぼ同じような推移を示しており、今年度の顕著な変化は見られない。

◇小4算数と小6国語における低位層の割合は、昨年度に比べて下がっている。

◆小6国語の状況は、上位層と下位層の差の縮小がみられるが、中央値がやや下位に下がっていることから、上位層が中位層に流れている。(図5、1全体概要の(3)、詳細版 小学校国語6年度数分布図)

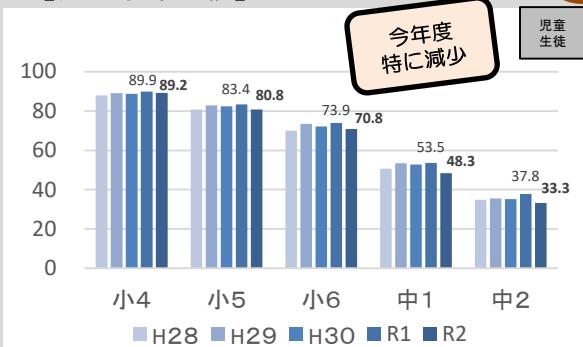
◇「先生がわかるまで教えてくれた」と感じている児童生徒の割合は、全学年で昨年度より上昇している。(図6)

# 4. 家での7つのやくそくに関する質問紙調査



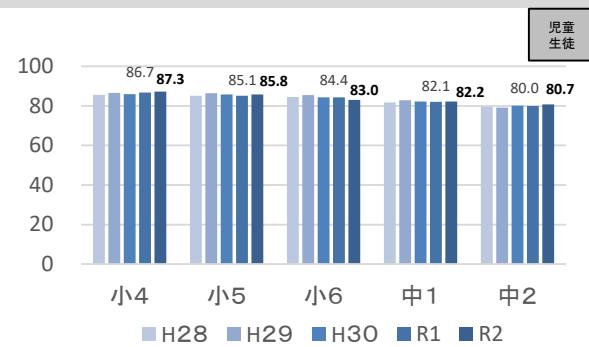
◆課題は、スマートフォンや携帯電話の使用時間（1時間以上）の割合が増加。1日30分以上読書をしている割合も低い傾向。  
 ◇家族との対話、前日準備は全学年で改善。宿題も中学校で改善傾向。  
 ●早い時期からのスマートフォンの取り扱いに関する啓発と、計画的な家での過ごし方に関する指導の充実が必要。

①11時までに寝ている児童生徒の割合【同一学年比較】



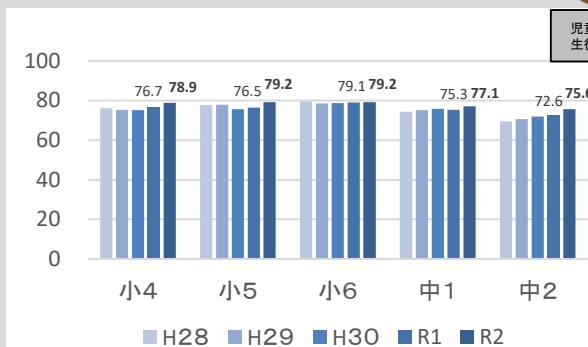
◆昨年度まで改善傾向がみられたが、今年度は全学年で減少している。

②朝ごはんを毎日食べている児童生徒の割合【同一学年比較】



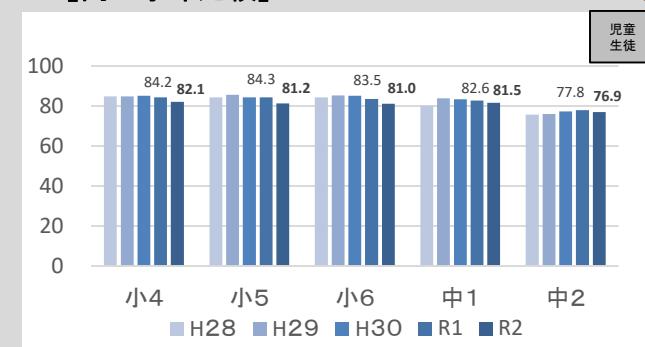
◇8割以上の児童生徒が「よくあてはまる」と回答しておりほぼ横ばいである。

③家族と対話している児童生徒の割合【同一学年比較】



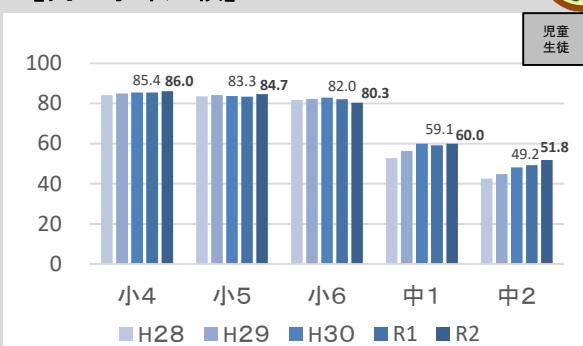
◇7割以上の児童生徒が肯定的に回答している。また、昨年度と比べて、全学年で改善傾向がみられた。

④前日に学校の準備をしている児童生徒の割合【同一学年比較】



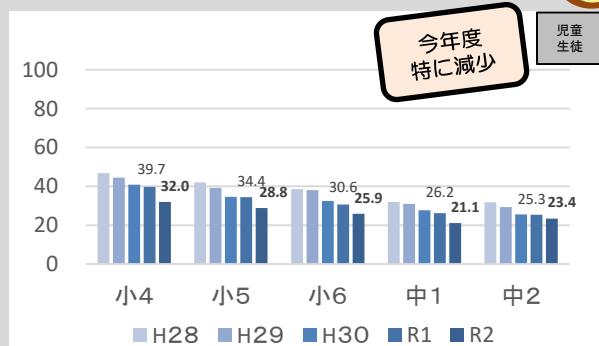
◆7割以上の児童生徒が肯定的に回答しているが、今年度は全学年で減少している。

⑤家で宿題をしている児童生徒の割合【同一学年比較】



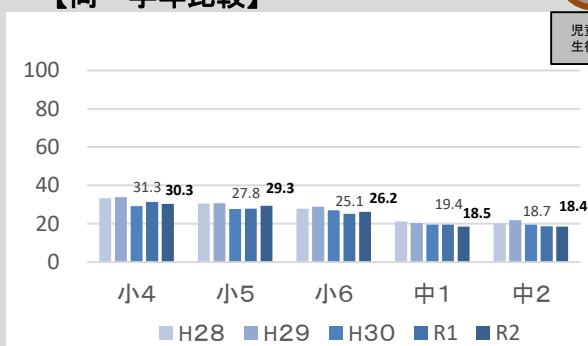
◇8割以上の児童生徒が「宿題をしている」と回答しており、ほぼ横ばいである。  
 ◇中学校では1、2年生とも改善している。

⑥1日のテレビゲーム等の使用が1時間未満の児童生徒の割合【同一学年比較】



◆全学年において1時間未満の児童生徒が減少している。

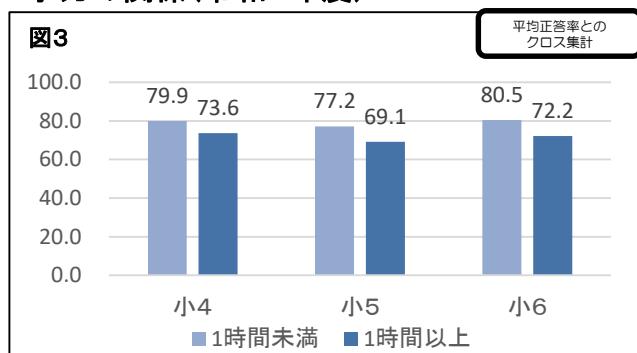
⑦30分以上読書している児童生徒の割合【同一学年比較】



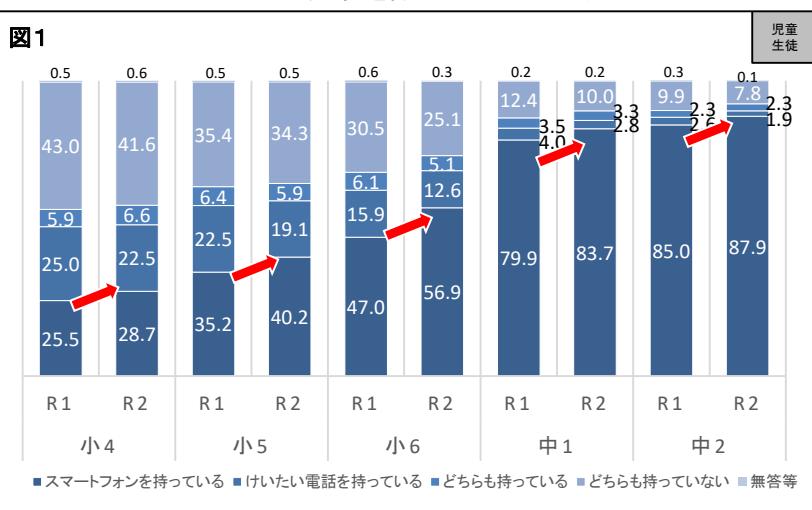
◆小5、小6は、やや改善したものの、中学校では昨年度より減少し、2割を切っている。

## スマートフォンや携帯電話に関するその他のデータ分析

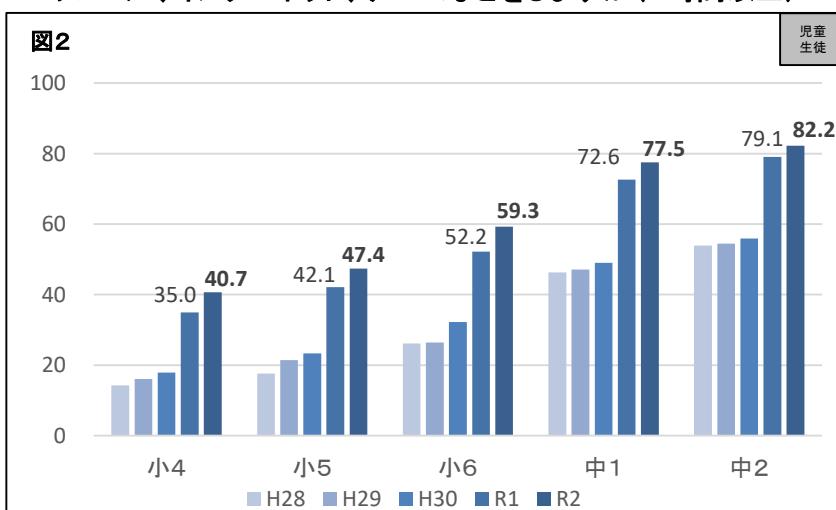
### スマートフォンや携帯電話の1日の使用時間と学力の関係(令和2年度)



### インターネット、電子メールなどができる自分だけのスマートフォンや携帯電話を持っていますか

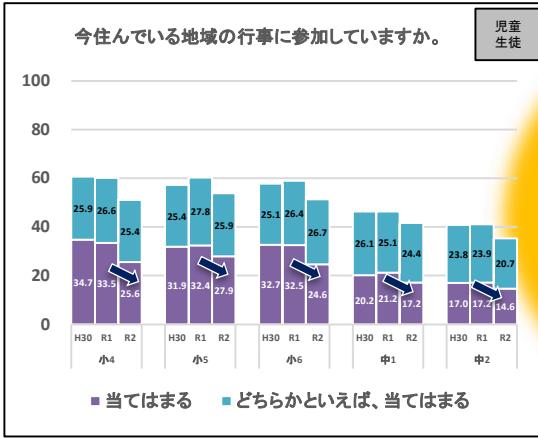
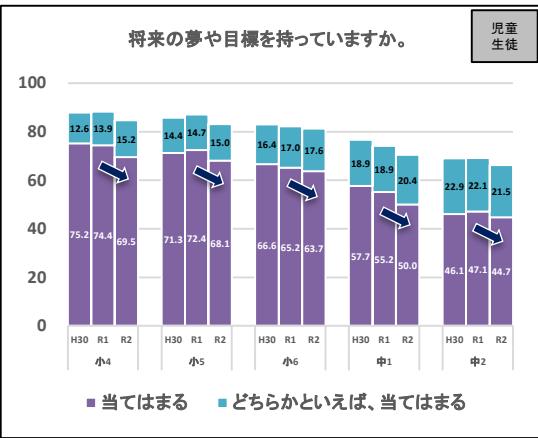
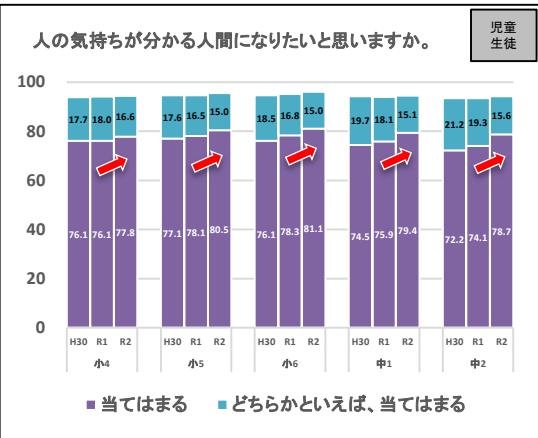
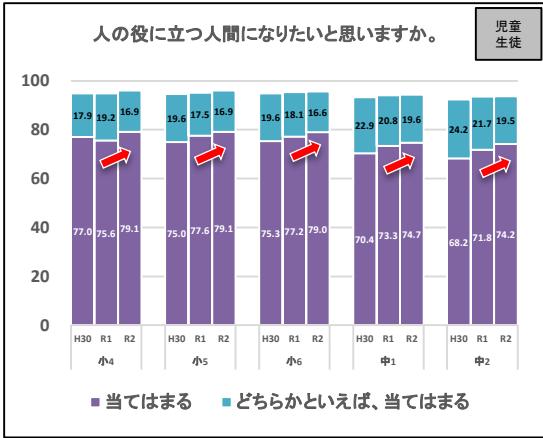


### 1日当たりどれぐらいの時間、スマートフォンや携帯電話で通話やメール、インターネット、ゲームなどをしますか(1時間以上)



【スマートフォンや携帯電話を持っている割合】(図1)  
 ◆スマートフォンや携帯電話の所持率は昨年度より高くなっている。令和2年度の所持率は小4で57.8%、小5で65.2%、小6で74.6%、中1で89.8%、中2で92.1%であり、学年が上がるにつれて高くなっている。  
 【スマートフォンや携帯電話の使用時間(1時間以上)の割合】(図2)  
 ◆全学年においてスマートフォンや携帯電話の使用が1時間以上の割合は平成30年度から令和元年度にかけて約20%増加し、さらに令和2年度では約3%~5%増加している。また、学年が上がるにつれてスマートフォンや携帯電話の使用1時間以上の割合は高くなる。  
 【スマートフォンや携帯電話の1日の使用時間と学力の関係(令和2年度)】(図3)  
 ◆スマートフォンや携帯電話の使用が1日1時間未満の児童生徒と1日1時間以上の児童生徒の学力における平均正答率を比較すると、小4で6.3ポイント、小5で8.1ポイント、小6で8.3ポイントの差がある。  
 ●スマートフォンや携帯電話の所持の低年齢化及び使用時間の増加(1時間以上)がみられるなか、スマートフォンや携帯電話の持ち始めが肝心であり、学校では小学校低学年から発達段階に応じて情報モラルに関する指導を適切に実施し、家庭には「ルール作り」等スマートフォンや携帯電話の取り扱いに関する啓発をする必要がある。また、情報モラルに関する指導上の工夫として、①「自分ごと」にするための指導、②自律をめざした指導がある。①については、自分と他人の認識のズレがあることを自覚する、「自分だったらどうするか」という視点で考える場面を設定する。②については、「ルールやマナーを守りましょう」というキャッチフレーズ的なルール指導から「これぐらいは大丈夫だろう」という自分の判断の甘さに基づく「範囲」と「程度」などを考える場面を設定することが重要である。<文部科学省委託 情報モラル教育推進事業 情報化社会の新たな問題を考える教材(令和元年度追加版) p20参照>

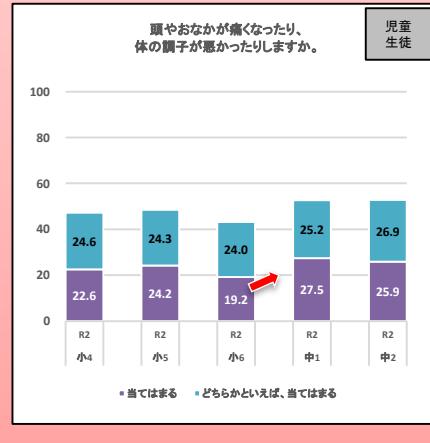
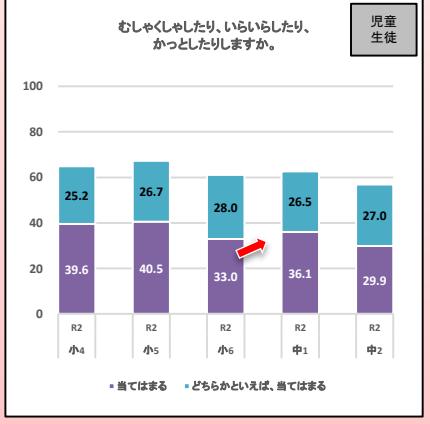
# 5. コロナ禍の影響に関する分析結果



### C 社会的実践力（協働的な学び）

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」では、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、全学年増加（前年比）している。児童生徒が主体となって、医療従事者へ向けて感謝のメッセージを作成したり、募金活動を行うことなどを通して、他人を思いやる気持ちにつながっていることも考えられる。

一方、「将来の夢や目標を持っていますか」や「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、全学年減少（前年比）している。学校質問紙「キャリア教育の指導計画を作成していますか」において、「学校全体で計画している」と回答した割合が小中ともに増加していることから、「キャリア・パスポート」を活用したキャリア教育を継続して行う。



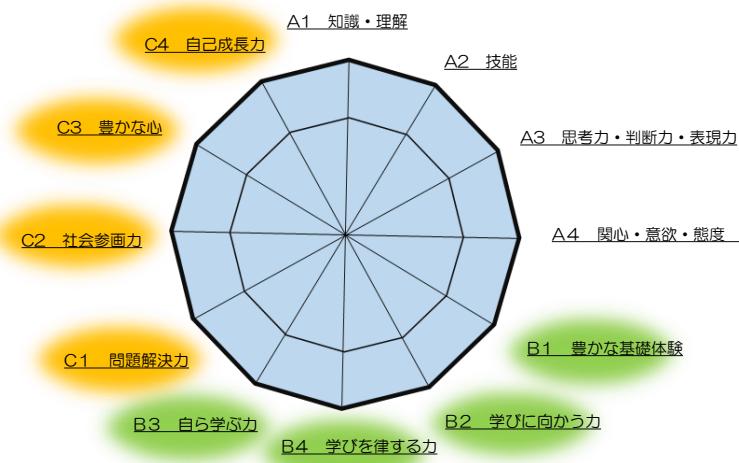
### ●生活の急変による子どものストレスについて

常にマスクの着用、三密対策によるいつもと違うコミュニケーションが求められる。表情が隠れてしまうことにつながり、ミスコミュニケーションが生まれやすい。「むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりしますか」や「頭やおなか痛くなったり、体の調子が悪かったりしますか」では、小学6年生から中学1年生にかけて「当てはまる」と回答した割合が高くなっている。今年度新たに追加された質問項目で、昨年度との比較はできないが、臨時休業中、特に新1年生は小中を問わず、クラスメイトや学級担任の顔を把握することが難しく、臨時休業が明けてもマスクで半分隠れた状態での対面となり、新しい人間関係の構築がストレスとなっていることも一因と考えられる。

また、テレビ・スマホゲームを使用する時間が増えている児童生徒や、就寝時間が遅くなったり、生活習慣が不規則になったりしている児童生徒が、質問結果からも多くみられた。心身ともに発達途上にある子どもたちは、心理的なストレスが、身体症状や行動面に現れやすく、子どもは、自分のことについて言語化することが難しく、心の状態が身体症状に置き換えて表出されるので、環境の変化や子どもの発達段階に留意し、ストレスケアに努めることが大切である。

## 総合学力プロフィール

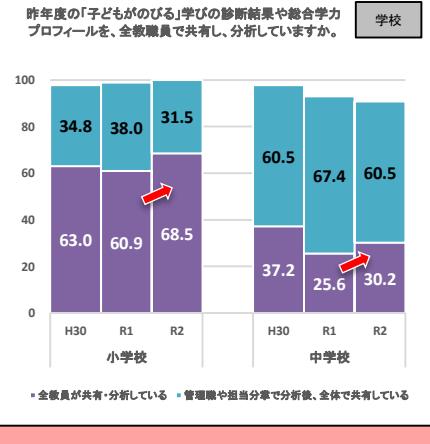
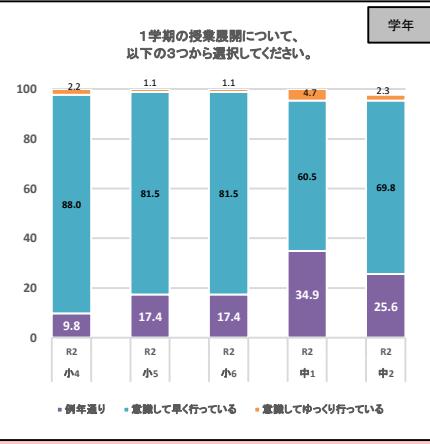
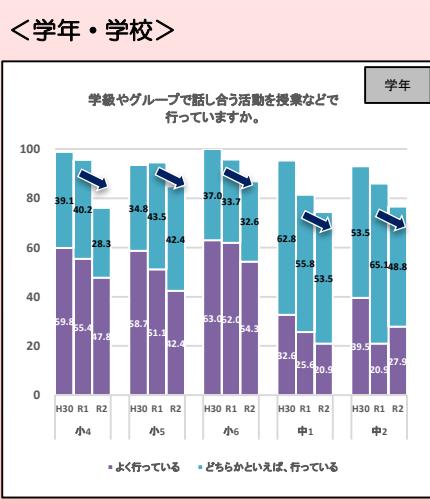
- A 学力（教科学力）
- B 学びの基礎力（自律的な学び）
- C 社会的実践力（協働的な学び）



### ●コロナ禍での教員や学校の変化

臨時休業で心配されたものの一つとして学力があげられる。履修させるべき内容を網羅し、かつ児童生徒の学力をのばすにはどうしたらよいか、教員にはその都度指導計画を見直す対応が求められた。

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてください」と回答した児童生徒の割合が、全学年で+2%（前年比）を超えている。

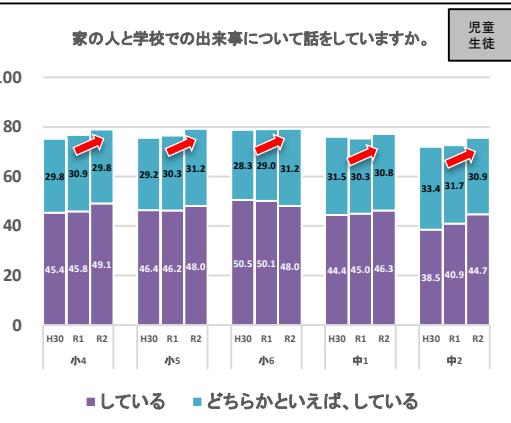
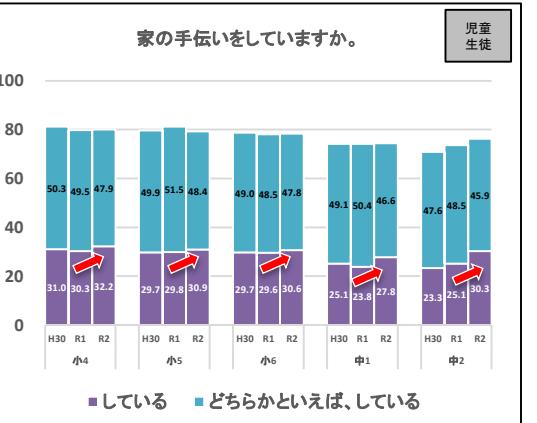
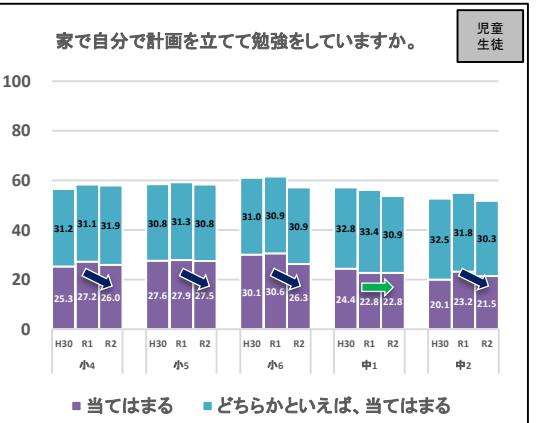
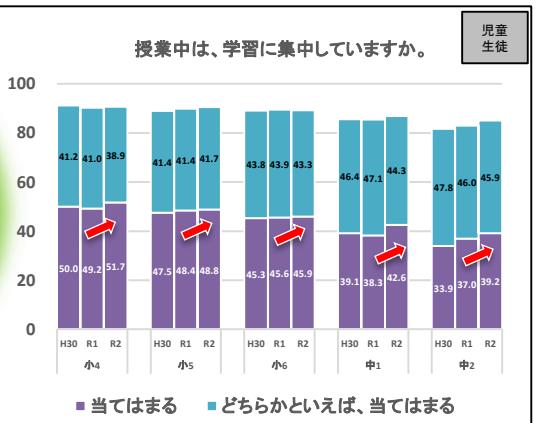


## B 学びの基礎力（自律的な学び）

「授業中は、学習に集中していますか」では、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、全学年増加（前年比）した。一方、臨時休業中課題がみられた「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」では、肯定的回答をした児童生徒の割合が、全学年減少（前年比）した。

1日あたりのテレビ・スマホゲームの使用時間が全学年増加（前年比）していることから、児童生徒が、自分で1日のスケジュールを立てて、それを実行していくこととする態度を育成する必要がある。

臨時休業等で、家に滞在する時間が増えたことで、「家の手伝い」や「家族とのだんらん」が増えるなどのポジティブな側面があったが、一方で、他人との交流減少や夜11時までに就寝する児童生徒の減少などの課題がみられた。



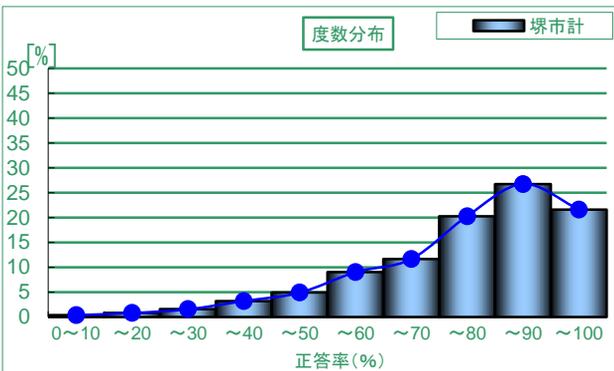
# 小学校国語

# 1. 小4の診断結果概要

## (1) 各設問・問題内容別結果

大問	小問	解答形式	基/活	出題のねらい	問題の内容	正答率(%)		目標値
						堺市	全国	
1	(1)	選択	基礎	大事なことを落とさないように聞き取ることができる。	話し合いの内ようを聞き取る	95.1	91.6	85.0
	(2)	選択	基礎	話し方の工夫に注意して聞き取ることができる。	話し合いの内ようを聞き取る	76.0	67.3	70.0
	(3)	記述	活用	話題に沿った意見と理由を考えて話すことができる。	話し合いの内ようを聞き取る	85.4	74.1	70.0
2	(1)①	短答	基礎	第3学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	61.4	52.7	55.0
	(1)②	短答	基礎	第3学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	88.4	85.5	85.0
	(1)③	短答	基礎	第3学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	68.3	61.4	65.0
	(2)①	短答	基礎	第3学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	52.0	54.3	65.0
	(2)②	短答	基礎	第3学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	76.4	61.6	60.0
	(2)③	短答	基礎	第3学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	79.4	73.5	70.0
3	(1)	選択	基礎	連体修飾語について理解している。	言葉の学習	60.0	63.0	60.0
	(2)	選択	基礎	連用修飾語について理解している。	言葉の学習	35.7	20.3	40.0
	(3)①	選択	基礎	国語辞典の使い方を理解している。	言葉の学習	84.5	73.5	60.0
	(3)②	選択	活用	国語辞典の使い方を理解している。	言葉の学習	63.3	55.4	50.0
4	(1)	選択	基礎	登場人物の様子を読み取ることができる。	物語の内ようを読み取る	90.6	83.5	85.0
	(2)	選択	基礎	登場人物の気持ちを読み取ることができる。	物語の内ようを読み取る	83.6	74.7	70.0
	(3)	選択	活用	目的や必要に応じて、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	物語の内ようを読み取る	91.1	84.4	75.0
5	(1)	選択	基礎	文章の内容を的確に読み取ることができる。	せつ明文の内ようを読み取る	94.4	87.6	85.0
	(2)	選択	基礎	段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。	せつ明文の内ようを読み取る	72.7	61.4	65.0
	(3)	短答	活用	目的や必要に応じて、文章の内容を整理することができる。	せつ明文の内ようを読み取る	61.2	43.0	40.0
6	(1)	記述	活用	相手や目的に応じて、話すことができる。	インタビューしたことをしようかいする	69.3	54.7	45.0
	(2)	選択	活用	書き方の工夫について意見を述べ合うことができる。	インタビューしたことをしようかいする	70.1	52.3	60.0
7		記述	基礎	指定された長さで文章を書くことができる。	作文	79.4	42.9	60.0
		記述	基礎	2段落構成で文章を書くことができる。	作文	75.7	43.1	55.0
		記述	基礎	書こうとするものの中心を明確にして書くことができる。	作文	91.6	65.6	70.0
		記述	基礎	理由や事例を挙げて書くことができる。	作文	88.6	57.1	55.0

問題の内容	正答率		目標値
	堺市	全国	
話し合いの内ようを聞き取る	85.5	77.7	75.0
漢字を読む	72.7	66.5	68.3
漢字を書く	69.3	63.1	65.0
言葉の学習	60.9	53.1	52.5
物語の内ようを読み取る	88.4	80.9	76.7
せつ明文の内ようを読み取る	76.1	64.0	63.3
インタビューしたことをしようかいする	69.7	53.5	52.5
作文	83.8	52.2	60.0



## 成果と課題、今後の取組

### ◇成果

・国語辞典の使い方の理解を問う問題は、平均正答率が全国正答率より高く、今年度も上昇傾向である。必要などときにはいつでも国語辞典が手元にあり、使えるような環境をつくり、実際に活用する機会を設けるなどの取組の効果が表れていると考えられる。【3(3)①②】

### ◆課題

・修飾・被修飾の関係についての理解を問う問題は、全国正答率を下回り、連用修飾語についての理解を問う問題は、正答率が低い。修飾と被修飾の関係を捉えることに、依然として課題がある。【3(1)(2)】

### ➤今後の取組

文がどのように組み立てられているかを理解するには、それぞれの語句の役割や語句相互の関係に気を付けて文を読むことが重要である。低学年で学習した主語と述語の関係の理解を一層深めるとともに、一文に着目して修飾語がどこの言葉に係るのかを考えたり、文章などを書く際には、相手に詳しく伝えるために修飾語を使ったりするなど、様々な学習場面で繰り返し活用できるよう、意識的に計画することが大切である。

(2) 課題のあった問題

**5**

次の文章を読んで、下の問題に答えましょう。

(1)～(5)は段落の番号を表します。

① ホットコーヒーを、三つのカップに入れ、それぞれのカップのそばに、赤色のラベル、黄色のラベル、緑色のラベルをはった、かんをおいておきます。そして、ひとりの人に、三つのカップのコーヒーを順番に飲んでもらい、どれがいちばんおいしかったかとしつ問します。

② その結果、赤色のラベルかんのそばにあったコーヒーが、いちばん味がこくておいしいという答えが返ってきました。黄色いラベルかんのそばにおいたコーヒーは、味がうすい、緑色のラベルでは、酸味の強いコーヒーだということです。どれも同じコーヒーだったのに。

③ 色と温度の関係でも、同じような実験をした例があります。ガラスのコップに同じ温度の湯を入れて、一方に赤い色をつけ、一方には青い色をつけます。そして、さわらせたところ、おおせいの人が、赤い色の湯のほうが熱いと答えました。

④ 飲みものの温度が同じでも、うつわの色によって熱く感じたり、ぬるく感じたりすることがあります。人間の心理って、おもしろいものです。

⑤ このように、色は、食べものの中身を強く想ぞうさせる力をもっています。食べものにはなるべく着色しないようにと言いますが、たくあんに黄色い色をのけるのは、(松本伸子)

※注 1 酸、心



③ 上の文章を読んだ田中さんは、読み取ったことを次のように整理しました。ア・イにあてはまる言葉を、アは二字、イは三字で、上の文章から書きぬきましょう。

・色とおいしさの関係

同じ味でも、色によって感じ方がちがう。

・色とアの関係

同じアでも、色によって感じ方がちがう。

←

人間は、色によって食べものの中身をイしている。

問題の趣旨

目的や必要に応じて、文章の内容を整理することができる。

誤答データ

正誤	反応率	解答類型
○	47.8	ア(温度)・イ(想ぞう)ともに正しい場面
△	18.0	ア(温度)のみ正しい場合
△	8.9	イ(想像)のみ正しい場合
×	19.9	上記以外の解答
×	5.4	無解答

誤答分析

ア・イのうち、どちらか一方だけを正答した児童は26.9%、ア・イ以外を解答し誤答となった児童は19.9%である。文章の構造や内容を基に文章全体の内容を正確に把握したうえで、中心となる語や文に着目することができなかったと考えられる。

改善策

**【目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する指導の充実】**

第3学年及び第4学年では、指導事項(1)C読むこととして「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」という資質・能力の育成が求められている。(小学校学習指導要領解説国語編P.110)

「要約する」とは、文章全体の内容を正確に把握したうえで、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。要約するためには、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係を、叙述を基に捉えることが欠かせない。要約する学習活動に取り組む際には、例えば、要約する必要がある課題を設定したり、中心となる語や文を考えながら読む習慣をつけたり、児童同士で要約した文章を読み合い、どの言葉に着目したのか、なぜその言葉に着目したのかを確認したりするなどが考えられる。また、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」という資質・能力は、説明的な文章(説明文など)のみならず、文学的な文章(物語など)を読み、あらすじを捉える際にも必要となることから、文学的な文章(物語など)を読む際にも意識して指導する。

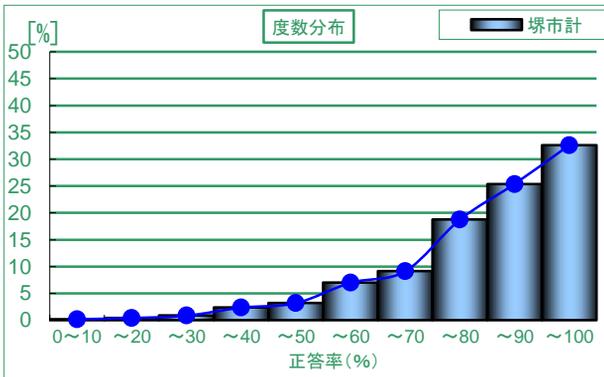
なお、他教科等で調べ学習を行う際にも、本や資料などの内容を端的に説明するといった要約の目的を意識しながら読むことが大切である。その際、調べた文章をそのまま書き写すのではなく、中心となる語や文を選び、要約する分量などを考えることで資質・能力の育成を図ることも考えられる。

# 1. 小5の診断結果概要

## (1) 各設問・問題内容別結果

大問	小問	解答形式	基/活	出題のねらい	問題の内容	正答率(%)		目標値
						堺市	全国	
1	(1)	選択	基礎	話の中心に気をつけて聞き取ることができる。	話し合いの内ようを聞き取る	91.5	91.5	90.0
	(2)	選択	基礎	話し方の工夫に注意して聞き取ることができる。	話し合いの内ようを聞き取る	84.7	83.3	85.0
	(3)	記述	活用	司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめることができる。	話し合いの内ようを聞き取る	54.3	46.6	50.0
2	(1)①	短答	基礎	第4学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	95.6	95.1	90.0
	(1)②	短答	基礎	第4学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	98.9	97.3	90.0
	(1)③	短答	基礎	第4学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	84.7	82.9	80.0
	(2)①	短答	基礎	第4学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	82.0	71.5	75.0
	(2)②	短答	基礎	第4学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	59.0	51.6	60.0
	(2)③	短答	基礎	第4学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	80.5	83.1	80.0
3	(1)	選択	基礎	いろいろな意味をもつ言葉について理解している。	言葉の学習	82.9	82.0	70.0
	(2)	選択	基礎	漢字の成り立ちについて理解している。	言葉の学習	65.2	60.3	60.0
	(3)	選択	基礎	指示語の使い方を理解している。	言葉の学習	93.3	85.6	85.0
	(4)	選択	活用	漢字辞典の使い方を理解している。	言葉の学習	79.9	76.3	70.0
4	(1)	選択	基礎	登場人物の様子を読み取ることができる。	物語の内ようを読み取る	91.4	89.8	85.0
	(2)	選択	基礎	登場人物の気持ちを読み取ることができる。	物語の内ようを読み取る	84.0	73.9	75.0
	(3)	選択	活用	目的や必要に応じて、登場人物の人物像を読み取ることができる。	物語の内ようを読み取る	81.4	76.6	75.0
5	(1)	選択	基礎	文章の内容を的確に読み取ることができる。	説明文の内ようを読み取る	93.3	90.7	85.0
	(2)	短答	活用	目的に応じて、中心となる文や語をとらえて読むことができる。	説明文の内ようを読み取る	74.5	60.5	55.0
	(3)	選択	基礎	段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。	説明文の内ようを読み取る	54.7	43.9	50.0
6	(1)	選択	活用	互いの考えの共通点を考えて話し合うことができる。	ちらしをもとに話し合う	61.5	53.4	60.0
	(2)	記述	活用	相手や目的に応じて、話すことができる。	ちらしをもとに話し合う	70.2	56.2	55.0
7		記述	基礎	指定された長さで文章を書くことができる。	作文	86.5	59.6	65.0
		記述	基礎	2段落構成で文章を書くことができる。	作文	82.6	54.1	50.0
		記述	基礎	理由や事例を挙げて文章を書くことができる。	作文	85.5	61.6	70.0
		記述	基礎	自分の意見を明らかにして文章を書くことができる。	作文	84.7	57.9	55.0

問題の内容	正答率		目標値
	堺市	全国	
話し合いの内ようを聞き取る	76.8	73.8	75.0
漢字を読む	93.0	91.8	86.7
漢字を書く	73.8	68.7	71.7
言葉の学習	80.3	76.1	71.3
物語の内ようを読み取る	85.6	80.1	78.3
説明文の内ようを読み取る	74.2	65.0	63.3
ちらしをもとに話し合う	65.8	54.8	57.5
作文	84.8	58.3	60.0



## 成果と課題、今後の取組

### ◇成果

- 指示語の使い方を問う問題の正答率は93.3%であり、全国正答率を大きく上回り、良好であった。【3(3)】
- 作文については、正答率が毎年全国正答率を大きく上回っており、構成を考え、適切に文章を書くことができている。目的を明確にして、書く活動を効果的に取り入れてきた成果であると考えられる。【7】

### ◆課題

- 段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取る問題は、全国正答率を上回っているが、正答率は54.7%と低い。「考えとその事例」や「結論とその理由」などの段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に捉えることに課題がある。【5(3)】

### ➤今後の取組

段落には問題を提示したり、具体例を示したり、理由や結論を述べたりするなどの役割があることを理解できるようにすることが重要である。また、それぞれの段落がどのような関係であるかを考え、内容を把握したり、必要な情報を的確に見付けたりすることにつなげることが大切である。そして、段落相互の関係に着目しつつ、「書き手の考えはどのような理由によって説明されているのか」、「その理由はどのような事例によって説明されているのか」などを考えることが、文章の内容を的確に読み取ることに効果的である。

(2) 課題のあった問題

聞き取りテストの内容

五年一組では、「ごみを減らすための心がけ」について話し合っています。

司会「今日は、ごみを減らすために、ふだんの生活でどのような心がければよいかを話し合います。意見のある人はいますか。はい、秋山さん。」

秋山「ぼくは、買ったものを長く使い続けることが、いちばん大切だと思います。なぜなら、まだ使えそうなものが、ごみとして捨てられているのを見たことがあるからです。買ったものは、最後まで大事に使う意識を持つべきだと思います。また、買うときにも、ほしいものがあったとしてもすぐには買わず、今あるものがまだ使えないのかを考えてから買うなど、買った物の仕方を直すことも必要なのではないでしょうか。」

司会「ほかの人はどうですか。はい、大島さん。」

大島「わたしは、余計なものは買わないことを心がけるべきだと思います。なぜなら、余計なものを買うことが、ごみがふえる原因だというニュースを見たからです。それによると、家庭から出る生ごみには、食べ残しが多いそうです。その中には、買ったのに食べなかった食品も多くふくまれていました。必要なものを必要な量だけ買うというように、ふだんの生活で、買った物の仕方を直す必要があると思います。」

(3) 大島さんが話したあとで、司会者が次のように話しました。□にあてはまる言葉を書きましよう。

秋山さんと大島さんの意見はちがいますが、二人とも、ごみを減らすための心がけとして、ふだんの生活で、□□□□が必要だと話していました。これについて、ほかの人はどう思いますか。

問題の趣旨

司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめることができる。

誤答データ

正誤	反応率	解答類型
○	51.8	〈例〉買った物の仕方を直す
△	5.0	内容が一部不十分な場合など
×	39.5	上記以外の解答
×	3.7	無解答

誤答分析

「上記以外の解答」の反応率は39.5%である。記述したものの誤答となった児童については、秋山さんと大島さんの意見の共通点に着目することができなかつたと考えられる。

改善策

【司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる指導の充実】

目的に応じて話し合い、考えをまとめるためには、司会・提案者・参加者などがそれぞれの役割を理解して話合うことが大切である。本設問のように、司会は話し合いを目的に応じて適切に進行するという役割であることから、提案者や参加者などの発言を比較し、それぞれの考えの共通点や相違点に着目できるようになることが重要である。また、話し合った内容をまとめる際には、「どのような意見が出ているか」「どのような点で考えが異なっているか」「今後どのように話し合いを進めていくとよいか」などの観点を児童がもってまとめられるよう指導することが大切である。

「A話すこと・聞くこと」の単元で身に付ける資質・能力は、他教科等での汎用性も高いことから、児童全員が司会をはじめ、すべての役割を経験できるよう他教科等と関連を図り、様々な議題の話し合いに取り組むことが効果的である。指導事項の系統性を意識しながら、資質・能力が着実に身につけられるよう指導することが重要である。

なお、新しい学習指導要領で新設された「情報の扱い方に関する事項(小学校学習指導要領解説国語編P.86)」では、比較・分類の仕方や必要な語句などの書き留め方などを理解し使うことが示されている。「聞くこと」を指導する際に、この指導事項と関連を図り、「話し合うこと」の指導につなげることが効果的である。

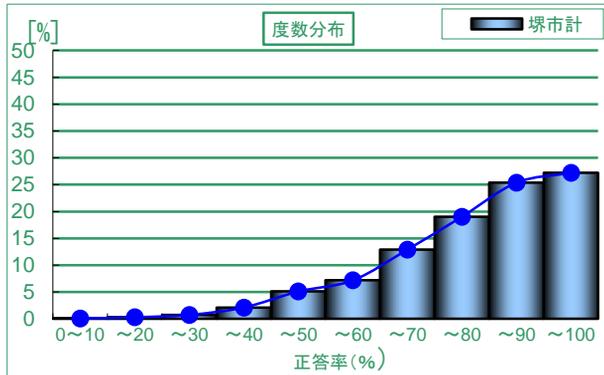
# 1. 小6の診断結果概要

## (1) 各設問・問題内容別結果

大問	小問	解答形式	基/活	出題のねらい	問題の内容	正答率(%)		目標値
						堺市	全国	
1	(1)	選択	基礎	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	話し合いの内容を聞き取る	97.6	96.9	90.0
	(2)	選択	基礎	話し方の工夫に注意して聞き取ることができる。	話し合いの内容を聞き取る	92.4	89.1	80.0
	(3)	記述	活用	互いの意図を考えながら話し合うことができる。	話し合いの内容を聞き取る	94.3	94.8	80.0
2	(1)①	短答	基礎	第5学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	89.9	88.6	85.0
	(1)②	短答	基礎	第5学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	63.9	63.7	70.0
	(1)③	短答	基礎	第5学年配当漢字を読むことができる。	漢字を読む	90.6	92.7	80.0
	(2)①	短答	基礎	第5学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	72.9	78.2	70.0
	(2)②	短答	基礎	第5学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	49.7	41.1	50.0
	(2)③	短答	基礎	第5学年配当漢字を書くことができる。	漢字を書く	71.0	70.3	60.0
3	(1)①	選択	基礎	敬語(謙讓語)の使い方を理解している。	言葉の学習	99.1	97.9	85.0
	(1)②	選択	基礎	敬語(尊敬語)の使い方を理解している。	言葉の学習	93.7	90.1	80.0
	(2)	短答	基礎	漢字の形と音・意味を理解している。	言葉の学習	78.6	78.0	70.0
	(3)	選択	基礎	連用修飾語について理解している。	言葉の学習	41.1	36.9	45.0
4	(4)	短答	活用	同音・同訓の漢字の使い分けができる。	言葉の学習	46.3	38.7	40.0
	(1)	選択	基礎	登場人物の心情を読み取ることができる。	物語の内容を読み取る	80.8	76.7	75.0
5	(2)	選択	基礎	登場人物の人物像を読み取ることができる。	物語の内容を読み取る	91.8	90.3	85.0
	(3)	短答	活用	目的や必要に応じて、文章の表現について理解することができる。	物語の内容を読み取る	62.1	54.5	45.0
	(1)	選択	基礎	文章の内容を的確に読み取ることができる。	説明文の内容を読み取る	83.7	78.3	75.0
6	(2)	選択	基礎	段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。	説明文の内容を読み取る	64.6	58.4	60.0
	(3)	選択	活用	文章の特徴を的確に読み取ることができる。	説明文の内容を読み取る	81.0	72.1	70.0
7	(1)	選択	活用	ポスターの工夫を理解することができる。	ポスターを作る	83.4	80.9	75.0
	(2)	記述	活用	目的や意図に応じて、ポスターの文章を書き直すことができる。	ポスターを作る	56.0	52.1	50.0
7		記述	基礎	指定された長さで文章を書くことができる。	作文	84.2	70.5	70.0
		記述	基礎	2段落構成で文章を書くことができる。	作文	84.7	65.5	65.0
		記述	基礎	理由や事例を挙げて文章を書くことができる。	作文	72.3	62.3	70.0
		記述	基礎	自分の意見を明らかにして文章を書くことができる。	作文	87.4	70.8	60.0

### 成果と課題、今後の取組

問題の内容	正答率		目標値
	堺市	全国	
話し合いの内容を聞き取る	94.8	93.6	83.3
漢字を読む	81.5	81.7	78.3
漢字を書く	64.5	63.2	60.0
言葉の学習	71.8	68.3	64.0
物語の内容を読み取る	78.3	73.8	68.3
説明文の内容を読み取る	76.4	69.6	68.3
ポスターを作る	69.7	66.5	62.5
作文	82.1	67.3	66.3



#### ◇成果

- ・相手の話の意図を考えながら話の内容を聞いたり、話し方の工夫に注意して聞き取ったりすることは高い正答率である。  
【1(1)(2)】
- ・敬語(謙讓語・尊敬語)の使い方を理解することは高い正答率である。  
【3(1)①②】

#### ◆課題

- ・第5学年配当漢字を書く設問(じょうしきを学ぶ。)は正答率は49.7%で、課題がある。  
【2(2)②】
- ・修飾・被修飾の関係(傍線部の語句がどの言葉を詳しくしているか)について理解する問題に、依然として課題がある。  
※平成30年度「学びの診断」における第4学年で出題された同様の設問の正答率は39.5%  
【3(3)】
- ・同音・同訓の漢字の使い分けは、正答率が46.3%であり課題がある。  
【3(4)】

#### ➤今後の取組

修飾と被修飾との関係を捉え、文がどのように組み立てられているかを理解することができるよう、指導の充実が求められる。指導に際しては、例えば「伝えたいことが相手によく伝わるように、修飾語を加えてみよう」「登場人物のこの行動はどのような修飾語を使って表現されているか」と問い、文章を書いたり読んだりすることと関連させて育成することが考えられる。

なお、主述の整った文に修飾語を加えたり、修飾語がどの言葉に係っているかを考えたりする際には、主語と述語との照応関係の理解が不可欠であることに留意する。

また、令和2年度全国学力・学習状況調査の設問③2(1)(2)を参考に指導することも考えられる。

(2) 課題のあった問題

「道に広がると、あぶないだけでなく、めいわくです。」だと、なぜあぶないのかということや、なぜめいわくなのかということがわかりにくいな。それぞれの理由を書き加えるとよいと思うよ。



【書き直す部分】

●道に広がらないで！

道に広がると、

[Blank box for writing the reason]



② 黒木さんは、原田さんから出された次の意見をもとに、「ポスター案」を書き直すことにしました。  
 【書き直す部分】の□にあてはまる言葉を、【警察官の話】の中の言葉を使って、五十文字以内の一文で書きましよう。



【警察官の話】  
 通学路で守ってほしいマナーは三つあります。  
 まず、大声でしゃべらないことです。大きな声でさわぐと、通学路の近くに住む人がうさく感じるかもしれません。  
 次に、道に広がらないことです。道に広がって歩くと、車とぶつかりやすくなるのできんです。また、ほかの人が通れなくなるので、周りにめいわくをかけることになりす。  
 最後は、飛び出さないことです。なさんよく知っているように、車は急に止まれせん。だから、道路に飛び出すのはとてもあぶないです。

通学路のマナーを守ろう

●大声でしゃべらないで！  
 大きな声でさわぐと、近くに住む人がうさく感じてしまいます。



●道に広がらないで！  
 道に広がると、あぶないだけでなく、めいわくです。



●飛び出さないで！  
 道路に急に飛び出すと、車は急に止まれないので、とてもあぶないです。



★通学路のマナーを守って、安全に気持ちよく登下校しよう！

6

学級委員の黒木さんは、交通安全教室での警察官の話をもとに、通学路のマナーを守るように呼びかけるポスターを作っています。次の「警察官の話」と「ポスター案」を読んで、あどの問題に答えましよう。

【ポスター案】

問題の趣旨

目的や意図に応じて、ポスターの文章を書き直すことができる。

誤答データ

正誤	反応率	解答類型
○	42.6	〈例〉(道に広がると、)車とぶつかりやすくなるのであぶないだけでなく、ほかの人が通れなくなるのでめいわくです。
△	15.6	正しい内容を書いているが、50字以内の1文で書いていない場合
△	11.4	内容が一部不十分な場合など (※字数や1文かどうかは不問)
×	27.4	上記以外の解答
×	2.8	無解答

誤答分析

「上記以外の解答」の反応率は27.4%である。記述したものの誤答となった児童については、原田さんから出された意見を踏まえ、【警察官の話】の中から、詳しく書く必要のある情報がどの部分であるかを適切に判断することができなかつたと考えられる。例えば、「道に広がるとあぶない」理由を第4段落の車は急に止まれぬことと、「めいわく」の理由を第2段落の大きな声でさわぐとうさく感じることに結び付けたことなどが想定される。

改善策

【目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実】

自分が伝えたい情報を相手に分かりやすく伝えるためには、必要な内容を、収集した情報の中から整理して書くことが重要である。

その際、書く目的や意図を明確にしたうえで、詳しく書く必要のある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き方を工夫することが大切である。また、「どのように書くと相手に伝わりやすいか」、「なぜその書き表し方がふさわしいのか」など、効果的な書き表し方を考える機会を設けることも大切である。

なお、書いた文章を児童同士で互いに読み合い、目的や意図に応じた文章となっているかなどについて、感想や意見を述べ合う学習活動をあわせて行くと、より効果的である。

# 小学校国語の結果

## (1) 成果と課題

### ◇成果

すべての学年において、「作文」は毎年全国正答率を大きく上回っており、構成等を考えて適切に書く力が身に付いていると考えられる。また、どの領域についても全国正答率を概ね上回っている。「書くこと」の領域以外についても、「堺版授業スタンダード」に基づく授業改善が進んでいる成果であると考えられる。

### ◆課題

以下の3点について課題が見られる。

- ①「前学年配当漢字」の漢字を書くこと。
- ②修飾・被修飾の関係について理解すること。
- ③文章全体を読んで、段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ること。

## (2) 授業改善のポイント

### <単元構想を考える際のポイント>

#### ①育成をめざす資質・能力を明確にしたうえで授業を構想する。

単元において、育成をめざす資質・能力を明確にし、授業を構想することが重要である。その際、どの学習場面でどのような学習活動を展開することが資質・能力の育成につながるか、具体的な児童の姿を想定し検討することが重要である。例えば、「書くこと」の領域における指導であれば、児童に期待する記述の内容を想定したり、「話すこと・聞くこと」の領域であれば、児童の具体的な発言などを想定することが大切である。成果物を作ることが目的となり、「活動あって学びなし」という学習にならないよう留意し、常に育成をめざす資質・能力と学習指導の関連を意識することが必要である。

また、以下の手順で単元を構想していくことが授業改善につながっていく。

- ・ステップ0 児童の学びの実態を把握する。  
(その際、堺市「子どもがのびる」学びの診断等、客観的なデータを活用する。)
- ・ステップ1 単元で取りあげる指導事項を確認する
- ・ステップ2 単元の目標と言語活動を設定する
- ・ステップ3 単元の評価規準を設定する
- ・ステップ4 単元の指導と評価の計画を決定する
- ・ステップ5 評価の実際と手立てを想定する

令和2年3月国立教育政策研究所

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』P.38より

#### ②言語活動を通して、指導事項を指導する。

国語科では、言語活動を通して指導事項を指導することが求められる。授業者は、言語活動を必ず授業の前に行い、指導事項に示された資質・能力の育成につながる活動になっているかを考えることが重要である。また、自分自身が言語活動を行うことで、どのような場面でどのような指導や支援が必要となるかを具体的に想定することが大切である。

##### 【言語活動を行う際の視点】

- 子どもが明確な目標をもつことができるようにする(目的意識、相手意識)
- 学習過程が見通せるようにする(学習計画、学習の流れ図)
- 単元のゴールを児童がイメージできるようにする

### <堺版授業スタンダードに基づいた授業改善のポイント>

#### ①【学習課題をつかむ】場面

児童が、学習課題に対して意欲を高め、興味や必要感もてるようにすることが大切である。そのためには、本時のめあてを指導者がたてるだけでなく、例えば、児童の「なぜだろう」という疑問から課題を見いだしたり、児童とのやり取りの中で児童自らがめあてを立てたり、本時のめあてを友だちと話し合ったりすることも考えられる。

例えば、1人1台PCを活用し、前時のノートや板書の記録を見直し、児童自身が前時からの流れやまとまりを意識して、本時の課題をつかむ学習場面を設定することも考えられる。

## ②【解決の見通しをもつ】場面

児童がめあてに示された課題を把握し、「前に学習した書き方で書いてみよう」「〇〇という言葉に着目して読んだらわかりそうだ」など、これまでの学習や経験と結び付けるなどして、解決方法を捉えられるよう指導することが重要である。また、単元の学習計画や学習手順等を基に、児童が本時の学習活動の見通しをもつことができるようにすることも大切である。

例えば、1人1台PCを活用し、見本となる話し合い活動と自分たちの話し合い活動の動画を何度も見比べることで、課題を解決するためのポイントを見出すことも考えられる。

## ③【自分で考え、表現する】場面

児童が、課題に応じた学習活動(教科書の教材や資料、友だちとの対話、その過程での気付き等のメモなど)を通して、根拠や理由に基づいて自分の考えを形成できるようにすることが重要である。また、複数の資料から必要な情報を取り出し、感想や自分の考えをもつよう指導することも大切である。

例えば、1人1台PCの文章作成ソフトやプレゼンテーションソフトを活用し、文章の構成や使用する語句を置き換えて推敲する学習活動を行うことも考えられる。

## ④【集団で考え、表現する】場面

集団で考える目的(集団で考えることによってどのような課題を解決するのかなど)を児童が理解したうえで学習を始めることが重要である。また、ペアや全体での交流の後、もう一度教材文を音読したり、着目すべき言葉(考えの根拠となる叙述)を見直したり、友だちの考えのよいところ(同一表現の解釈の違いや根拠として選んでいる表現など)や、集団で考えたことで生じた自分の考えの変化などをノートにまとめることも効果的である。

例えば、1人1台PCを活用し、それぞれの児童の考えを大型デジタルテレビ等に複数表示することで、一人ひとりが自分の考えと友達の考えを比較・吟味し、考えを広げたり深めたりする学習活動を行うことも考えられる。

## ⑤【学習をふりかえる】場面

児童が「どう考えて、結局何がわかったか」を自分でとらえ直す時間として、児童がめあてを見返して、自分の言葉でふりかえりを書く時間を設けることが大切である。その際、課題の解決状況や学習の過程における自身の気づき、解決の過程で活用した学習活動の有効性や解決に役立った友だちの考えなどを振り返られるよう、観点を示すことも考えられる。

例えば、家庭学習において1人1台PCにあるAIDリルを活用し授業で学習したことを自身の学習状況に応じてふりかえり、学習内容の定着を図ることも考えられる。

## (3) 低学年時の指導のポイント

### ①「C 読むこと ア」の指導事項に示された資質・能力の育成

第2学年の終了時まで、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」ができるように指導することが重要である。内容の大体を捉えるとは、一つの段落など文章の特定の部分にとどまらず、文章全体に何が書かれているかを大づかみに把握することである。文章を読む際に、どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大づかみに捉え、それを手掛かりに内容を理解することが求められる。例えば、文章の冒頭において、全体の内容を大まかに説明していることなどに着目し、説明の順序を押さえることも考えられる。  
(小学校学習指導要領解説国語編P.69～70)

### ②語彙指導の改善・充実

中央教育審議会答申(平成28年12月21日)において、「語彙はすべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。」と指摘されているように、語彙は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる重要な要素である。語彙を豊かにするためには、単に意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係等の理解を通して語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高める学習も重要である。例えば、聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目することや、話したり書いたりする際に意識的にいろいろな表現を使うようにすることが有効である。  
(小学校学習指導要領解説国語編P.8、19、47)

### ③読書指導の改善・充実

読書は、国語科で育成をめざす資質・能力をより高める重要な活動の一つである。特に、「読むこと」の領域では、学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する必要がある。単元の第3次では、自分で本を読む機会を設定し、読書する機会の充実を図っていく必要がある。物語、昔話、絵本、科学的読み物、図鑑など様々な本を読む機会や読み聞かせを通して親しむ機会を充実させることが大切である。  
(小学校学習指導要領解説国語編P.10、74)

# 小学校算数

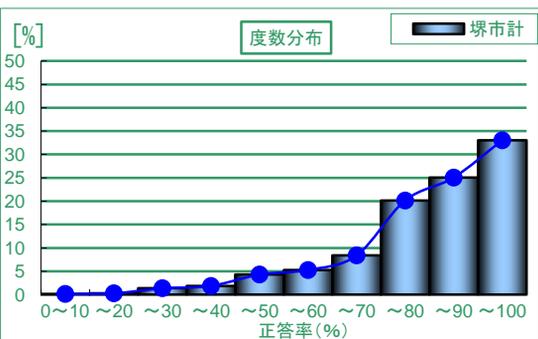
# 1. 小4の診断結果概要

## (1) 各設問・問題内容別結果

大問	小問	解答形式	基/活	出題のねらい	問題の内容	正答率(%)		目標値
						堺市	全国	
1	(1)	短答	基礎	乗数が0の計算ができる。	かけ算とわり算	95.0	98.4	90.0
	(2)	短答	基礎	2けた×1けた=3けたの計算ができる。	かけ算とわり算	88.3	75.9	80.0
	(3)	短答	基礎	2けた×2けた=4けたの計算ができる。	かけ算とわり算	75.0	65.5	70.0
	(4)	短答	基礎	2けた÷1けた=1けた(余りあり)の計算ができる。	かけ算とわり算	88.2	79.9	80.0
	(5)	短答	基礎	2けた÷1けた=1けた(余りなし)の計算ができる。	かけ算とわり算	96.0	92.2	90.0
	(6)	短答	基礎	2けた÷1けた=2けた(余りなし)の計算ができる。	かけ算とわり算	86.2	87.9	90.0
	(7)	短答	基礎	同分母の真分数+真分数=真分数の計算ができる。	分数と小数	96.2	95.6	90.0
	(8)	短答	基礎	整数-小数第一位の計算ができる。	分数と小数	77.9	58.9	55.0
2		選択	基礎	数直線上に示された分数を読み取ることができる。	分数と小数	81.4	67.5	70.0
3	(1)	選択	基礎	小数のしくみを理解している。	分数と小数	94.2	90.1	90.0
	(2)	選択	基礎	小数の相対的な大きさについて理解している。	分数と小数	91.7	81.8	90.0
4	(1)	選択	基礎	十進位取り記数法について理解している。	億と兆・がい数	84.4	81.0	80.0
	(2)	選択	基礎	数の相対的な大きさがわかる。	億と兆・がい数	51.6	49.3	50.0
5	(1)	選択	基礎	上から2けたの概数の表し方を理解している。	億と兆・がい数	77.1	82.1	75.0
	(2)	選択	基礎	概数に対応する数の範囲がわかる。	億と兆・がい数	70.5	61.6	60.0
6	(1)	選択	活用	□を使った文章問題(減法逆の加法の場面)を表した図を理解している。	□を使った式	92.2	85.3	80.0
	(2)	選択	活用	□を使って、減法の式に表すことができる。	□を使った式	85.2	63.9	70.0
7		選択	活用	□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶことができる。	□を使った式	57.7	40.6	55.0
8		選択	基礎	文章問題を解くための乗法の立式ができる。	かけ算とわり算	86.7	75.8	75.0
9	式	短答	基礎	文章問題を解くための除法の立式ができる。	かけ算とわり算	88.4	88.4	85.0
	答え	短答	活用	文章問題を解くために立式した3けた÷1けた=2けた(余りあり)の式から、余りの処理をして正しい答えを求めることができる。	かけ算とわり算	74.1	69.7	70.0
10	(1)	選択	基礎	ある時刻から一定時間前の時刻を求めることができる。	時ごとと時間	84.3	78.6	80.0
	(2)	選択	基礎	2つの時刻を比較して、その間の時間を求めることができる。	時ごとと時間	81.8	78.6	80.0
	(3)	選択	基礎	1分=60秒の関係を理解している。	時ごとと時間	90.2	84.2	80.0
11	(1)	選択	基礎	はかりの目盛りの読み方を理解している。	長さ・重さ	90.9	86.3	85.0
	(2)	選択	基礎	身近にあるものの重さの単位について理解している。	長さ・重さ	88.2	68.8	75.0
12	(1)	選択	基礎	円の半径について理解している。	円と球・三角形	89.3	82.0	75.0
	(2)	選択	基礎	3個のボールがぴったり入っている箱の横の長さから、ボールの直径を求めることができる。	円と球・三角形	90.1	79.4	75.0
13	(1)	短答	基礎	折れ線グラフの縦軸の目りの付け方を理解している。	折れ線グラフ	96.9	94.4	90.0
	(2)	選択	基礎	折れ線グラフを正しく読み取ることができる。	折れ線グラフ	61.4	47.0	45.0
14	(1)	短答	活用	ある時刻から一定時間後の時刻を求めることができる。	時ごとと時間	65.7	42.8	40.0
	(2)	記述	活用	余りの処理に気をつけて、列の数と一番後ろの列の人数を求めることができる。	かけ算とわり算	34.5	15.3	30.0
	(3)	短答	活用	問題の場面を理解し、乗法と減法を適用して答えを求めることができる。	かけ算とわり算	45.9	20.6	30.0
15		記述	活用	余りのあるわり算の答えの確かめ方を説明することができる。	かけ算とわり算	47.9	37.7	35.0

### 成果と課題、今後の取組

問題の内容	正答率		目標値
	堺市	全国	
かけ算とわり算	75.5	67.3	68.8
億と兆・がい数	70.9	68.5	66.3
分数と小数	88.3	78.8	79.0
時ごとと時間	80.5	71.1	70.0
長さ・重さ	89.5	77.6	80.0
円と球・三角形	89.7	80.7	75.0
折れ線グラフ	79.2	70.7	67.5
□を使った式	78.4	63.3	68.3



◇「重さ」の問題では、全国正答率を19.4%上回っており、身近にあるものの重さを推察したのち、実際の測定する活動などを行っている成果が表れている。【11(2)】

◇「□を使った式」の問題では、全国正答率を21.3%上回っており、図と式などを関連付けた指導の成果が表れている。【6(2)】

◆「億と兆・がい数」の問題では、全国正答率を2.3%上回っているが正答率は51.6%であり課題である。指導にあたっては、1億よりも大きな数について、3年生で学習した「1万をこえる数」を想起し、相対的な見方に触れながら「1億は1000万が10個」「1億は一千万の次の位」など、数を多面的にみる指導をすることが大切である。【4(2)】

◆「余りの処理に気をつけて、列の数と一番後ろの列の人数を求めることができる」問題では、全国正答率を19.2%上回っているが正答率は34.5%であり課題である。指導にあたっては、いくつ余るかを考えなければならない場面で、余りをどうとらえるか、具体的な日常場面を考えながら、計算の結果がそのまま答えにならないこともあることを理解することが大切である。【14(2)】

#### 今後の取組

日常場面を関連付け、具体的にイメージできる場面に触れながら、言葉や数、式、図、表やグラフなどを相互に関連させ、自分の考え及び計算や答えの意味を分かりやすく説明したりするなどの指導を充実させることが大切である。

(2) 課題のあった問題

**14** 3年生全体で、大なわとび大会をします。3年生は2クラスあります。



**【大なわとび大会のルール】**  
 ・1人1回ずつとんでいく。  
 ・クラスの最後の人とんだら、最初の人にもとってとぶ。  
 ・2分間に、いちばん多くとんだクラスをゆう勝とする。

(1) 大なわとび大会は、午前10時35分に始めて、次のように進めます。

**【大なわとび大会の進め方】**

午前10時35分				
始まり	じゅんぴ ルール説明 (15分)	1組 入れ替え (2分)	2組 入れ替え (2分)	順位発表 (8分)
始まり				終わり

・1クラスの持ち時間は、2分  
 ・クラスの入替えの時間は、3分

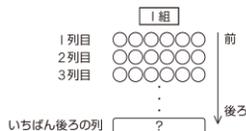
あやかさんは、大なわとび大会が何時何分に終わるかを、次のように説明しました。あやかさんの考えの「ア」にはあてはまる時間を、「イ」にはあてはまる時こくを書きましょう。

**あやかさんの考え**  
 【大なわとび大会の進め方】から、大会にかかる時間は、全部で「ア」です。だから、午前10時35分から「ア」後の午前「イ」に終わります。



なわとびをしていないときは、見学席にすわります。

(2) 見学席では、クラスごとに分かれて、1列に6人ずつ、前から順にすわります。いちばん後ろの列は、6人いなくても1列と数えます。1組の人数は、34人です。1組は、全部で何列になって、いちばん後ろの列は何人になるかを答えましょう。また、その求め方を言葉や数、式を使って書きましょう。



大なわとび大会では、2組がゆう勝しました。

(3) 2組の人数は、32人です。2組の記録は、あと9回とべば、全員が3回ずつとんだことになる回数でした。2組の記録は何回でしたか。

問題の趣旨

【14(2)】余りの処理に気をつけて、列の数と一番後ろの列の人数を求めることができる。

誤答データ

問題	類型1(正答)	類型2	類型3	類型9	無解答	全国正答率
14(2)	15.9	18.5	21.7	35.2	8.7	15.3

類型番号	【14(2)】の解答類型	正誤
1	式を交えて求め方を説明している場合	○
2	式のみを書いている場合	○
3	余りの処理ができていない場合	×
9	上記以外の解答	×

誤答分析

・式がわかり、形式的な処理ができているが、余りを繰り上げ「商+1」と考えたり、余りを切り捨てて考えたりする場で、「余りをどうとらえるか」判断することに課題が見られる。

改善策

・わり算の余りの処理については、余りを切り上げる場合(商を1大きくする場合)と余りを切り捨てる場合(商がそのまま答えになる場合)があることを理解することが大切である。  
 ・余りを繰り上げる場合でも形式的に1を加えればよいと考えないようにするために、場面をよく理解したうえで、余りの処理のしかたを判断させることが大切である。  
 ・授業では、条件過多・不足の問題設定を行うことで、必要な情報を収集したうえで条件に合うものを選択したり、問題文から式や答えを求めたのち、逆に式や答えが問題場面に適応できるか考察したりすることが大切である。

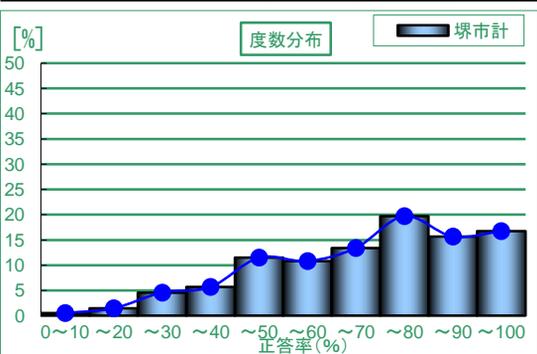
# 1. 小5の診断結果概要

## (1) 各設問・問題内容別結果

大問	小問	解答形式	基/活	出題のねらい	問題の内容	正答率(%)		目標値
						堺市	全国	
1	(1)	短答	基礎	真分数+帯分数=帯分数(繰り上がりあり)の同分母分数の計算ができる。	分数	82.6	76.3	75.0
	(2)	短答	基礎	帯分数-真分数=真分数(繰り下がりあり)の同分母分数の計算ができる。	分数	85.5	77.4	80.0
	(3)	短答	基礎	小数第一位×整数の計算ができる。	小数	89.6	75.7	80.0
	(4)	短答	基礎	小数第二位÷整数=小数第二位(商が純小数)の計算ができる。	小数	76.0	56.0	60.0
	(5)	短答	基礎	小数第一位×小数第一位の計算ができる。	小数	78.4	98.4	80.0
	(6)	短答	基礎	小数第一位×小数第二位(乗数に空白あり)の計算ができる。	小数	61.0	60.6	60.0
	(7)	短答	基礎	小数第二位÷小数第一位=小数第一位の計算ができる。	小数	77.0	74.1	70.0
	(8)	短答	基礎	小数第一位÷小数第一位=小数第二位(商が純小数)のわり進む計算ができる。	小数	75.0	75.3	70.0
2	選択	基礎	小数を1/100にした小数を求めることができる。	小数	85.0	82.5	80.0	
3	選択	基礎	整数÷小数(小数第一位)の商と余りを、小数点の位置を含めて正しく求めることができる。	小数	61.5	50.0	60.0	
4	選択	基礎	与えられた分数の数直線上への示し方を理解している。	分数	92.9	93.1	90.0	
5	(1)	選択	活用	小数の除法の文章問題を表した図の構造をとらえることができる。	小数	76.8	67.6	70.0
	(2)	選択	基礎	図を使って、小数の除法の文章問題に合った式を選ぶことができる。	小数	68.8	63.9	60.0
6	式	短答	基礎	文章問題を解くための小数の除法の立式ができる。	小数	38.1	31.5	30.0
	答え	短答	基礎	文章問題を解くために立式した小数第一位÷小数第一位=小数第二位(商が純小数)の式から、正しい答えを求めることができる。	小数	36.2	30.1	30.0
7	選択	活用	計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選ぶことができる。	計算のきまり	73.6	62.6	65.0	
8	選択	基礎	( )を使った四則混合の式の計算順序がわかる。	計算のきまり	69.0	73.9	65.0	
9	選択	基礎	分配法則がわかる。	計算のきまり	55.3	52.8	50.0	
10	(1)	選択	基礎	分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方を理解している。	角の大きさ	89.1	85.0	80.0
	(2)	選択	基礎	180°より大きい角の大きさの見当をつけることができる。	角の大きさ	79.0	76.4	70.0
11	選択	基礎	平行の意味を理解している。	いろいろな形	77.7	66.6	65.0	
12	選択	基礎	いろいろな四角形の対角線の特徴を理解している。	いろいろな形	46.1	36.1	35.0	
13	選択	基礎	直方体のある面と垂直な辺を理解している。	いろいろな形	74.4	76.1	70.0	
14	短答	基礎	平行四辺形の作図ができる。	いろいろな形	67.4	46.2	60.0	
15	選択	基礎	立方体の体積の求め方を理解している。	面積・体積	68.8	65.3	65.0	
16	選択	基礎	直方体の水そうの容積を求める式を選ぶことができる(単位換算あり)。	面積・体積	15.5	30.0	30.0	
17	選択	基礎	直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる。	面積・体積	69.5	70.4	75.0	
18	(1)	短答	基礎	伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができる。	整理のしかた・変わり方調べ	93.2	91.3	85.0
	(2)	短答	活用	伴って変わる2つの数量の関係を表すことができる。	整理のしかた・変わり方調べ	64.4	55.3	55.0
19	(1)	選択	活用	面積の求め方に合った式を選ぶことができる。	面積・体積	66.2	56.6	50.0
	(2)	記述	活用	道の重なりに注目して、面積の大きさを説明することができる。	面積・体積	46.3	31.7	30.0
20	(1)	選択	活用	合同な三角形を作図できる条件を理解している。	合同な図形	62.6	53.1	45.0
	(2)	記述	活用	合同な三角形を作図できる条件を説明することができる。	合同な図形	30.7	21.6	30.0
	(3)	選択	活用	図形の性質を基に、図形の名前と1つの辺の長さのみで合同な図形をかくことができる形を選ぶことができる。	合同な図形	59.5	51.3	45.0

### 成果と課題、今後の取組

問題の内容	正答率		目標値
	堺市	全国	
分数	87.0	82.3	81.7
小数	68.6	63.8	62.5
計算のきまり	66.0	63.1	60.0
角の大きさ	84.1	80.7	75.0
面積・体積	53.3	50.8	50.0
合同な図形	50.9	42.0	40.0
いろいろな形	66.4	56.3	57.5
整理のしかた・変わり方調べ	78.8	73.3	70.0



◇「式に合った文章題を選ぶ」問題では、全国正答率を11.0%上回っており、目標値も上回っている。文章から立式する指導とともに、式から文章を読み取る指導も行っている成果が表れていると考えられる。【7】

◇「平行四辺形の作図」の問題では、全国正答率を21.2%上回っている。定義と関連付けコンパス等を活用したきめ細かな作図指導の成果が表れている。【19】

◇「面積・体積」「合同な図形」の活用問題では、全国正答率を8.2%~14.6%上回っており、目標値も上回っている。これまで課題であった活用問題で6年生も同様の成果が表れており、「堺版授業スタンダード」を基にした思考力・判断力・表現力等の育成に向けた取組が各学校で推進されていると考える。【19、20】

◆「 $6.4 \times 7.3$ 」の小数の計算の問題では、全国正答率を20.0%も下回っている。小数のかけ算とたし算のひっ算が混同していると考えられる。小4の億の問題と同じく、「 $2.31$ は0.1を23個」「 $2.31$ は、1が2個と0.1が3個」など、ある小数を多様に表すことも必要である。【1(5)】

◆「小数の除法を立式する」問題では、正答率が38.1%と低く課題がみられる。【6(1)】

#### ＞今後の取組

計算の仕方を考える学習については、「計算のプロセスをノートに書く、説明する」などの言語活動を充実させ、計算の仕方を理解する必要がある。文章題を立式する際、低学年から絵や図に表現できるように指導し、中学年・高学年で数直線図等から演算決定できるよう系統的に指導をする必要がある。

(2) 課題のあった問題

1 次の計算をしましょう。

(5)  $6.4 \times 7.3$

6  $5.6\text{m}^2$ の花だんに $1.4\text{kg}$ の肥料をまきました。 $1\text{m}^2$ に肥料を何 $\text{kg}$ まいたことになりますか。式と答えを書きましょう。

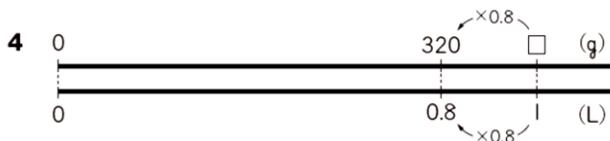
※参考

5 次の問題を読んで、あとの問題に答えましょう。答えは1~4から

1つ選んで、その番号を書きましょう。

(1) この問題の答えを□として図に表すと、どのようになりますか。

問題  
0.8Lの土があります。重さは320gです。  
この土1Lの重さは何gですか。



問題の趣旨

- 【1】 (5) 小数第一位×小数第一位の計算ができる。
- 【6】 (1) 文章題を解くための小数の除法の立式ができる。

誤答データ

問題	類型1	類型2	類型9	無解答	全国正答率
1(5)	78.4(正答)	—	19.9	1.7	98.4
6(1)	38.1(正答)	9.0	50.2	2.8	31.5

類型番号	【6】(1)の解答類型	正誤
1	$1.4 \div 5.6$	○
2	$1.4 \times 5.6$ 、 $5.6 \times 1.4$ 【乗法を立式している】	×
9	上記以外の解答	×

誤答分析

- 【1】 (5) 小数の乗法と加法のひっ算を混同し、答えの小数点の位置を誤っている。
- 【6】 (1) 整数の文章題では除法の演算決定ができるのに、小数の文章題になると文章題のイメージが持てなくなり、除法の演算決定ができない。

改善策

「 $6.4 \times 7.3$ 」の小数のかけ算では整数で考え、ひっ算で導き出した答え「4662」を100分の1の「46.62」にしなければならないが、小数のたし算のひっ算と混同して、「466.2」と解答していることから、かけ算とたし算のひっ算の仕方を理解しないで、計算をしていると考えられる。小数のかけ算に限らずひっ算の学習では、単に機械的にひっ算を行うのではなく、ひっ算の意味理解をするために、ひっ算の計算のプロセスを説明したり、記述したりする言語活動を行い、ひっ算の構造を計算の仕方と再度比較して理解を深める授業に取り組む必要がある。またそれに加え、今後は1人1台のPCがあることから、ひっ算の説明をPCに録音し自分で繰り返し聞いたり、ひっ算のプロセスをPCに入力したりして、いつでも自分がひっ算で学習したことを保存して振り返られるようにすることで系統的な学習につながると考える。

小数の除法の演算決定は複数の方法を授業で扱いたい。1つは文章題の数値を整数に置き換えて演算決定できるようにする。例えば「 $1\text{m}^2$ の重さ＝肥料の重さ÷面積」の言葉の式をたて、小数の場合も考えることで除法の意味を拡張できる。もう1つ数直線図を根拠として演算決定できるようにしたい。上図の参考にある数直線図を根拠に「1あたり量を求めるときはわり算」というイメージを持たせたい。この考えは6年生の分数の除法にもつながるので大事にしたい考え方である。教科書では演算決定のための数直線図活用が3年生から行われおり、また1あたり量については2年乗法→3年生除法から絵や図を用いて「1あたり量」のイメージを持てるように系統的に指導する必要がある。今後はPCを活用して計算の仕方や演算決定の学習場面で自分がかいた絵や図等を低学年の時から保存しておいて、高学年になっても振り返れるよう数学的表現において系統的な学習を行いたい。

「説明する問題」については、6年生同様、全国正答率を上回っているものの、3割程度と正答率が低いので、今後も引き続き、「言葉や式、図を関連させて説明する」などの取組をPCも活用しながら推進する必要がある。

# 1. 小6の診断結果概要

## (1) 各設問・問題内容別結果

大問	小問	解答形式	基/活	出題のねらい	問題の内容	正答率(%)		目標値
						堺市	全国	
1	(1)	短答	基礎	真分数+真分数で、分母どうしをかける通分をする計算ができる。	分数の計算	86.8	86.0	85.0
	(2)	短答	基礎	帯分数-真分数=真分数(約分あり)で、片方の分母にそろえる通分をする計算ができる。	分数の計算	78.3	67.8	70.0
	(3)	短答	基礎	分数×分数(約分なし)の計算ができる。	分数の計算	92.5	98.4	90.0
	(4)	短答	基礎	帯分数×帯分数(約分1回)の計算ができる。	分数の計算	82.7	84.3	85.0
	(5)	短答	基礎	分数÷分数(約分なし)の計算ができる。	分数の計算	88.1	90.2	90.0
	(6)	短答	基礎	分数÷帯分数(約分2回)の計算ができる。	分数の計算	86.1	88.1	85.0
	(7)	短答	基礎	整数×分数×分数の計算ができる。	分数の計算	89.1	89.6	90.0
	(8)	短答	基礎	分数×分数÷分数の計算ができる。	分数の計算	82.2	82.4	80.0
2		選択	基礎	小数の分数の形への直し方を理解している。	分数と小数	90.8	81.8	75.0
3		選択	基礎	分数と小数の大小比較ができる。	分数と小数	65.1	42.2	45.0
4		選択	基礎	分数の乗数、除数の大きさから、積、商と被乗数、被除数の大小を判断することができることを理解している。	分数の計算	64.2	56.4	60.0
5		選択	基礎	分数の除法の意味(わり算の性質)を理解している。	分数の計算	73.8	68.6	65.0
6	(1)	選択	基礎	道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶことができる。	速さ	88.0	87.6	85.0
	(2)	選択	基礎	速さをもとに、ある道のりを移動するのにかかる時間を求める式を選ぶことができる。	速さ	82.6	83.3	85.0
	(3)	選択	基礎	速さと時間から、進む道のりを求めること(単位換算あり)ができる。	速さ	59.9	43.0	40.0
	(4)	選択	基礎	速さの単位の関係を理解し、分速を時速に直すことができる。	速さ	76.7	76.9	75.0
7	(1)	選択	基礎	線対称な図形の対応する辺について理解している。	対称な形	47.0	40.5	40.0
	(2)	短答	基礎	点対称な図形について理解し、作図することができる。	対称な形	82.8	86.0	85.0
8		選択	基礎	三角形の内角の和が180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることができる。	平面図形・角柱と円柱	84.6	70.8	70.0
9		選択	基礎	三角柱の展開図から、見取図の辺の長さを読み取ることができる。	平面図形・角柱と円柱	71.8	44.5	50.0
10		短答	活用	正八角形の作図方法から、円の中心のまわりでできる角の大きさと、正八角形の1つの内角の大きさを求めることができる。	平面図形・角柱と円柱	45.7	33.8	45.0
11		選択	基礎	円の直径から円周を求める式を理解している。	平面図形・角柱と円柱	72.2	88.6	90.0
12	(1)	選択	基礎	高さが図形の外にある三角形の面積を求める式がわかる。	図形の面積	85.2	75.8	75.0
	(2)	選択	基礎	台形の面積を求めることができる。	図形の面積	86.0	66.4	70.0
13	(1)	選択	基礎	3つの色の塗り方が何通りあるかを求めることができる。	場合の数	76.1	71.3	75.0
	(2)	選択	基礎	4種類の中から2種類選ぶときの選び方が何通りあるかを求めることができる。	場合の数	60.5	51.1	60.0
14	(1)	短答	基礎	文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表すことができることを理解している。	文字と式	81.9	75.0	80.0
	(2)	短答	基礎	2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。	文字と式	76.4	68.4	70.0
15		選択	活用	文字を使った式が表す場面を選ぶことができる。	文字と式	71.9	63.5	65.0
16	(1)	記述	活用	問題の場面を理解し、畑1m <sup>2</sup> あたりにとれたじゃがいもの重さを比較して、どちらの畑の方が面積のわりによくとれたのかを説明することができる。	単位量あたりの大きさ	60.7	44.3	40.0
	(2)	短答	活用	畑の面積と1m <sup>2</sup> あたりのじゃがいもの重さから、3組でとれたじゃがいもの重さを求めることができる。	単位量あたりの大きさ	52.7	27.5	30.0
17	(1)	選択	活用	与えられた情報を読み取り、問題を解決することができる。	割合とグラフ	51.6	39.8	40.0
	(2)	選択	活用	グラフを正しく読み取ることができる。	割合とグラフ	85.9	67.5	60.0
	(3)	記述	活用	与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しくない理由を説明することができる。	割合とグラフ	36.3	16.8	30.0

問題の内容	正答率		目標値
	堺市	全国	
分数と小数	78.0	62.0	60.0
分数の計算	82.4	81.2	80.0
図形の面積	85.6	71.1	72.5
速さ	76.8	72.7	71.3
単位量あたりの大きさ	56.7	35.9	35.0
平面図形・角柱と円柱	68.6	59.4	63.8
対称な形	64.9	63.3	62.5
割合とグラフ	58.0	41.4	43.3
文字と式	76.8	69.0	71.7
場合の数	68.3	61.2	67.5

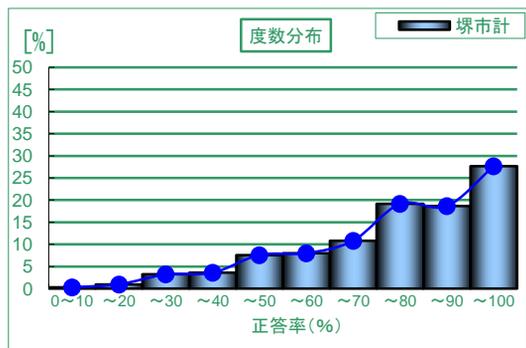
### 成果と課題、今後の取組

- 「分数と小数の大小比較」の問題では、全国正答率を22.9%上回っている。分数と小数の大きさを「量」としてとらえることができるよう授業で工夫をしている成果だと考える。【3】
- 「台形の面積を求める」問題では、全国正答率を19.6%上回っている。情報過多の問題であるが、必要な情報を的確に把握することができており、「倍積変形」「等積変形」の考え方を授業で交流できていると考えられる。【12(2)】
- 「単位量あたりの大きさ」「割合とグラフ」の活用問題では、全国正答率を11.8%~25.2%上回っており、目標値も上回っている。これまで課題であった活用問題で5年生も同様に成果が表れており、「堺版授業スタンダード」を基にした思考力・判断力・表現力等の育成に向けた取組が各学校で推進されていると考える。【16、17】

- 「正八角形の内角を求める」問題では、全国正答率を11.9%上回っているが、正答率が45.7%と低く無回答が52.1%と多く課題である。【10】
- 「円の直径から円周の長さを求める」問題は全国正答率を16.4%も下回っている。昨年度も「円周の長さを求める」問題は全国正答率を18.0%下回っていることから、「直径と円周の関係」についての理解に課題がある。【11】

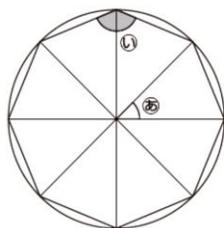
#### > 今後の取組

多角形の内角の和について理解するため、三角形の内角の和が180°という既習事項をもとにして、多角形の内角の和を考える数学的活動を充実させることが必要である。直径・半径・円周の関係が混同していることが考えられたため、様々な大きさの円の直径と円周との関係を調べる活動を通して、多くのデータをもとにいつでも円周は直径の約3.14倍であることを考える活動を行うことが必要である。

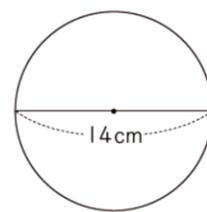


(2) 課題のあった問題

10 ひろきさんは、次の図のように、円の中心のまわりの角を8等分して、正八角形をかきました。このとき、㉔、㉕の角度はそれぞれ何度ですか。



11 右の図のような、直径14cmの円があります。この円の円周の長さを求める式はどれですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1  $7 \times 3.14$
- 2  $14 \times 3.14$
- 3  $14 \times 2 \times 3.14$
- 4  $7 \times 7 \times 3.14$

問題の趣旨

- 【10】・円の中心のまわりにできる角と、正八角形の一つの内角の大きさを求めることができる。
- 【11】・円の直径から円周を求める式を理解している。

誤答データ

問題	類型1	類型2	類型3	類型4	類型9	無解答	全国正答率
【10】	45.7(正答) ㉔と㉕ 完答	—	—	—	—	52.1	33.8
【11】	2.9	72.2(正答)	4.4	20.2	0	0.2	88.6

類型番号	【11】の解答類型	正誤
1	$7 \times 3.14$	×
2	$14 \times 3.14$	○
3	$14 \times 2 \times 3.14$	×
4	$7 \times 7 \times 3.14$	×

誤答分析

- 【10】  $360^\circ$  の八等分、二等辺三角形の内角の和、正八角形の内角の和が理解できていない。
- 【11】 直径・半径と円周の関係、直径・半径と面積の関係を混同している。

改善策

正八角形の内角の問題については、無解答が半分以上と多く論理的に思考することに課題が見られる。考え方としては、 $360^\circ$  を8等分して、中心角 ㉔ を求め ( $360^\circ \div 8 = 45^\circ$ )、その次に、三角形の内角  $180^\circ$  から  $45^\circ$  を引いた角の大きさが ㉕ の角と同じ大きさであることに気づかなければならない。

図形の授業では論理的に思考することが大変重要である。例えば、三角形の内角の和については、分度器ではかる、しきつめる、切って並べるなど多くのデータをもとに「帰納的な考え方」を軸に授業展開し、四角形以降の多角形の内角の和については「三角形の内角の和は  $180^\circ$  だから、四角形の内角の和は、四角形に対角線をひいて三角形を2つに分けて考えると  $360^\circ$  になる。五角形は三角形が3つだから  $540^\circ \dots$ 」というように「演繹的な考え方」を軸に学習展開する。円に内接する正八角形の内角の和についても「演繹的」に考え「八角形は三角形が6つだから  $1080^\circ$ 」「正八角形の内角の和の1つ分は  $1080^\circ \div 8 = 135^\circ$ 」と導き出せるようにもしたい。

直径・半径・円周の関係が混同していることへの指導としては、上記多角形の内角の和の学習と同様に、様々な大きさの円の直径と円周との関係を調べる活動を通して、多くのデータをもとに「直径の3.14倍が円周」であることを「帰納的」に考える学習を充実させる必要がある。さらに「どんな大きさの円でも円周は直径の3.14倍」であることをPCを活用して視覚的に印象づけることもできる。

「説明する問題」については、5年生同様、全国正答率を上回っているものの、36.3%と正答率が低いので、「言葉や式、図を関連させて説明する」などの取組をPCも活用しながら推進する必要がある。

# 小学校算数の結果

## (1) 成果と課題

### ○成果

いずれの学年も、「数と計算」「図形」領域において全国正答率や目標値を上回っている。これは、

- ①問題場面を絵や図に表したり、問題に示された数量を簡単な数量に置き換えたりして立式する活動
- ②数量の関係を図や数直線などに表し、式と関連付ける活動
- ③数や式のしくみを理解し、その性質を用いて計算の仕方を考える活動
- ④具体物について大きさを調べたり、確かめたりするなど、様々な場面で比較や測定する活動

などの取組を、日々の授業の中で進めている成果と言える。

### ●課題

依然として、各学年、記述問題において、次の課題が見られる。

- ①問題を解決するための自分の考え方や解決方法について説明すること
- ②他者の考え方や解決方法を理解して、それをもとに自分で解決方法を説明すること
- ③ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由を、根拠を挙げて具体的に説明すること

## (2) 授業改善のポイント

- ①問題を解決するための自分の考えや解決方法について説明する力を身に付けるためには、新たに見いだした事柄を既習の事柄と結び付けて考える活動が重要である。そのためには、本単元と既習の単元の系統性を整理するとともに、それぞれの単元の軸となる「数学的な見方・考え方」を明確にし、その関連性を捉えることで、本単元がこれまでのどのような学習が基になっているのか、これからの学習や生活場面にどのように生かされていくのかを把握することが必要である。(例として、5年生の分析から課題にあがっている「小数の乗法、除法」における系統性・関連性を掲載する。)

【例】「小数の乗法、除法」における系統性・関連性

	既習の学習内容	身に付けている「数学的な見方・考え方」
1年	<b>たし算</b> ・1位数の加法・減法 ・簡単な2位数の加法・減法	・加法の意味について理解する ・「10とあといくつ」という数の見方に着目する
2年	<b>1000までの数</b> ・十進位取り記数法 ・何百+何百でくり上がりのある計算  <b>かけ算</b> ・九九 ・簡単な2位数の乗法	・数のまとまりに着目し、同じ大きさの集まりにまとめて考える ・乗法が用いられる実際の場面を通して、まとまりのいくつ分という乗法の意味について理解する ・乗法九九を構成する。 ・乗法九九について成り立つ性質に着目する ・九九を身に付ける
3年	<b>大きい数</b> ・10倍、100倍、1000倍 ・千万の位までの数の構成と位取りのしくみ  <b>かけ算</b> ・2位数や3位数に1位数や2位数の乗法  <b>わり算</b> ・2位数や3位数に1位数や2位数の乗法	・乗法が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできていることを理解する ・乗数が1位数の計算は、数のまとまりに着目して計算する ・乗数が2位数の計算は、何十をかける計算と1位数をかける計算でできる ・数量の関係を式に表したり、式を読み取ったりする ・除法は、乗法の逆算とみる ・小数は、整数の十進位取り記数法の考えを1より小さい数に拡張して考える
4年	<b>小数</b> ・小数の意味と表し方 ・簡単な小数の加法、減法  <b>大きい数・がい数</b> ・億や兆 ・がい数、四捨五入 ・四則計算  <b>小数</b> ・小数の加法・減法 ・小数×整数・小数÷整数	・十進位取り記数法について理解を深める ・数のまとまりに着目し、大きな数の比べ方や表し方を統合的に捉える ・小数が整数と同じ仕組みで表されていることの理解を深める
5年	<b>小数のかけ算・わり算</b> ・小数の乗法、除法 ・ $1/10$ 、 $1/100$ の位	・整数と小数がともに十進数で考えていることを理解している ・整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用する ・整数の場合に成り立つ式の形は、小数の場合にもそのまま使えるという拡張の考えを用いている
6年	<b>分数のかけ算・わり算</b> ・分数と小数の混合計算 ・分数・小数の計算のまとめ  <b>中1</b> <b>正の数・負の数</b> ・正負の数 ・正負の数の四則計算	・整数から小数の乗法及び乗法へと拡張された乗法及び除法の意味を適用できる。

②他者の考え方や解決方法を理解して、それをもとに自分で解決方法を説明する力を身に付けるためや、③ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由を、根拠を挙げて具体的に説明する力を身に付けるためには、子どもたち1人1人考えや表現を教室全体やグループで共有したり、どのように考えたのかという思考過程をグループで比較検討したりしながら、客観的で合理的な説明に高め合う活動を設けることが重要である。そのような場面を設定するために、「塚版授業スタンダード」の問題解決的な学習の流れを再掲する。

※「塚版授業スタンダード」の問題解決的な学習の流れにおける各場面の指標(例)

	学習課題をつかむ	解決の見通しをもつ	自分で考え、表現する	集団で考え、表現する	学習をふりかえる
1年	課題の意味を知ることができる	言葉、数、式、図(数量図、テープ図、数直線など)から必要な表現方法を選ぶことができる	具体物を操作したり絵・図・式・言葉などを使ったりして、自分なりに表現することができる	自分の考えを友だちに伝えることができる	本時の学習でわかったこと、自分や友だちのがんばりについて書くことができる
	課題の意味を知り、既習との違いに気付くことができる	表現方法に加え、「計算のきまりを使う」、「0.1のいくつ分を考える」、「通分する」などの解決方法を考えることができる	絵・図・式・言葉などを必要に応じて使い、自分の考えをかくことができる	考えを伝え合うとともに、自分や友だちの考えを比較し、共通点や相違点を見つけることができる	本時の学習でわかったこと、自分や友だちの考えを認めたり、よい考えにふれたりした内容をかくことができる
	課題の意味を知り、既習との違いに気付いたり、課題解決の糸口になるものを選択したりすることができる	表現方法、解決方法に加え、 $1/2 + 1/3$ の答えは $1/2$ よりも大きく、 $1/3$ よりも小さいなど、結果の見通しをもつことができる	言葉・数・式・図・表・グラフの中から、より効果的だと思われる方法を組み合わせて使い、自分の考えをかくことができる	自分や友だちの考えを関連付け、よりよい考えを導くことができる	本時の学習でわかったこと、めあてを達成することができたか、自分の見通しや考え方はどうであったかなど、自己の学びを振り返ることができる
	課題解決の糸口を見つけ、自分の問題とし、めあてをもつことができる	表現方法、解決方法を複数想起し、よりよいと思う方法を選択することができる	自分の考えをわかりやすく表現するとともに、その方法のよさ、その方法を選択した理由を示す	友だちの考えを理解し、図で表現されたものを式と関連付けたり、式の意味や数直線を言葉で説明したりすることができる	自分と友だちの考えを比較・検討した結果、どの考えがよりよい方法、いつでも使える方法かなどにふれるとともに、次時への見通しをもつことができる
6年			必要に応じて多様に考え、自分の中でよりよい方法を見つけていく	それぞれの考えの妥当性や有効性について根拠を述べながら話し合うことができる	

### (3) 低学年の指導のポイント

#### ①説明する力を身に付ける解決の見通しをもつ場面

自分の考え方や解決方法について説明する力を身に付けるために、課題に対して、方法の見通し(既習事項から表現方法や解決方法を見いだすこと)や結果の見通し(答えはだいたいどれくらいか)などが持てるようにすることが大切である。なかなか見通しが持てない時は、全体で共有したり、机間指導で今までの学習を想起したり、学習状況の段階に応じて進めていく。

#### ②説明する力を身に付けるふりかえりの場の設定

他者の考えや解決方法を理解して、それをもとに自分で解決方法を説明する力を身に付けるために、本時の学習をふりかえる場面では、基本的には、「わかったこと」「自分の考えについて」「友だちの考えについて」という3点とともに、単元の特性に応じて、例えば「かけ算」なら「まとまりという言葉をつかって思ったことを書きましょう」などのように、他の観点を加えて書くようにする。

#### ③説明する力を身に付ける指導・支援

ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由を、根拠を挙げて具体的に説明する力を身に付けるために、まず、「はなすときのやくそく」「きくときのやくそく」などを提示し、それに沿って話す側と聞く側の態度を身に付けるようにする。また、必要に応じて「説明をするときの言葉」等を提示し、言葉を手掛かりに表現できるようにする。

### (4) 1人1台端末の活用

#### ①学びの軌跡の蓄積

小5の診断結果では、「数と計算」領域の系統的な指導内容に課題が見られることから、前学年で学習した「計算の仕方」等を高学年でも振り返れるように、各個人が自分のノートの考え方や板書、友だちのノート等を自分の1人1台端末を活用して保存する方法が考えられる。これにより、いつでも子どもが学びの軌跡を端末で見返すことができ、既習事項をもとに考える学び方が身に付けられる。

#### ②考えの共有

小4の診断結果から、日常生活の問題解決のために、複数の情報を関連付けて論理的に考察し数学的に表現したり、条件に合う事柄について、適切に判断したりすることができるようにする指導の充実が必要である。1人1台端末を活用して、ペア学習やグループ学習の際、情報を共有し、自分と他者の考えをすぐに比較することや、どのような方法で考えていくのか、見通しを見合い、様々な解き方を共有することが有効であると考えられる。

#### ③視覚支援

小6の診断結果から、「図形」領域については、図形感覚を養えるよう、1人1台端末を活用し、視覚をつかい多様な角度から図形をみる必要があるようになってくると考える。

## 1. 調査の概要

### (1) 調査日時

令和2年12月1日（火）～12月15日（火）の期間のうち1日

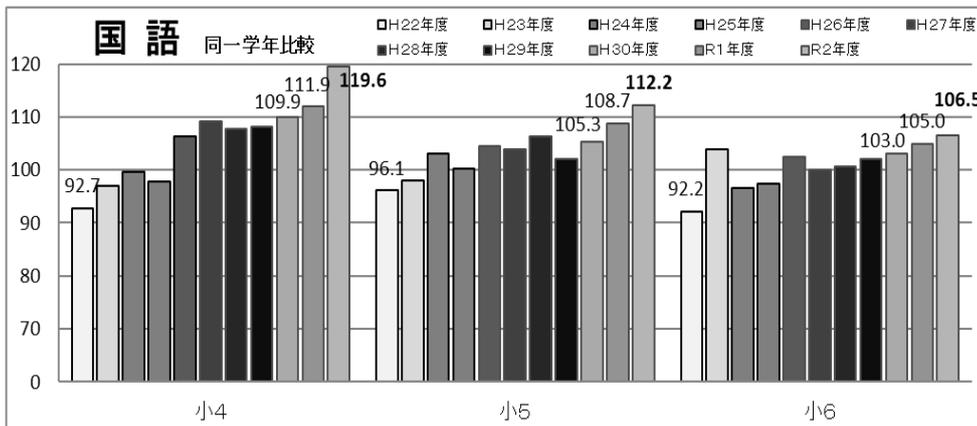
### (2) 調査内容（小学校）

- ① 教科に関する調査・・・「国語」「算数」
- ② 児童質問紙調査・・・学習意欲・学習方法・学習環境・生活等に関する調査
- ③ 学校質問紙調査・・・指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等に関する調査
- ④ 学年質問紙調査・・・指導方法に関する取組等の調査

### (3) 各学年・各教科の平均正答率（％）

	堺市立小学校		
	4年	5年	6年
国語	75.8	80.1	77.4
(全国参考値)	63.4	71.4	72.7
算数	79.6	67.4	74.0
(全国参考値)	70.8	62.2	66.4

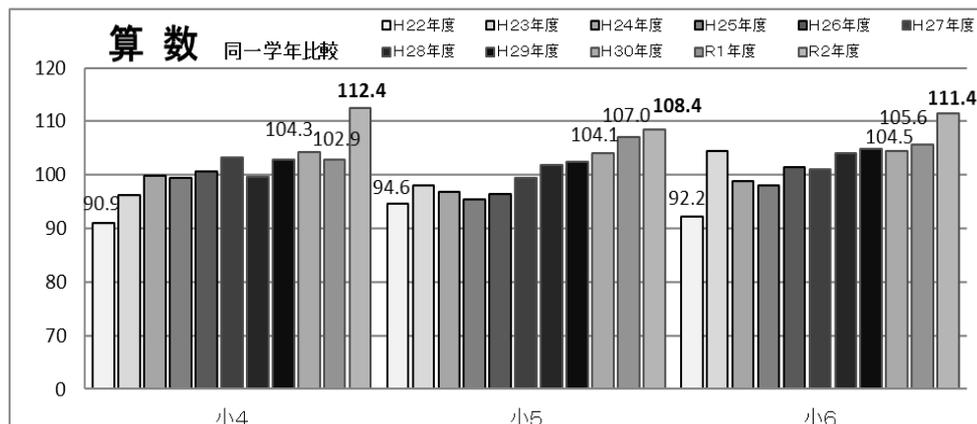
## 2. 教科学力の結果概要（全国参考値を100とした場合）



### 国語

◇小4、小5、小6で、昨年度の結果を上回りました。

◆作文などを「書くこと」で成果が見られました。自分の思いや考えが明確になるよう、文章の構成を考えたり、理由や事例をあげたりするなどの書く学習が進められています。



### 算数

◇小4、小5、小6で、昨年度の結果を上回りました。

◆「数と計算」「図形」で成果がみられました。問題場面を絵や図に表したり、具体物を用いて操作して考える学習が進められています。

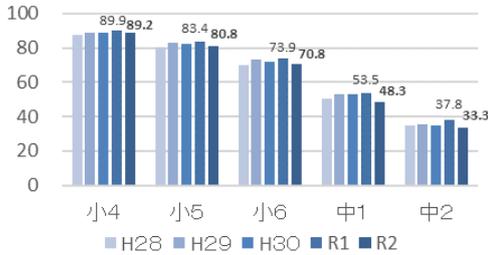
### 3. 学習・生活状況の結果概要【小学4年生から中学2年生までの経年比較】

正しい習慣を身につけ、自分の行動を自分で律する力を付けることが、学力向上につながります。7つのやくそくをチェックして生活習慣を見直しましょう。

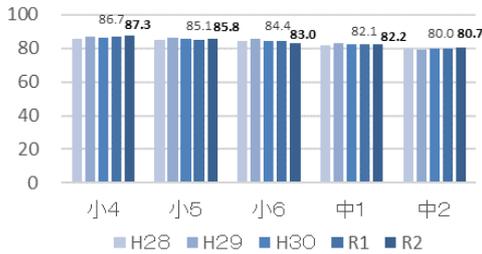


- 1 早寝早起きの習慣をつけよう。
- 2 朝ごはんを毎日食べよう。
- 3 家族との対話を大切にしよう。
- 4 学校に持って行くものを前日に確かめよう。
- 5 宿題など自分から進んで勉強しよう。
- 6 携帯電話やスマートフォン、テレビやゲームの時間を決めよう。
- 7 本を読む時間をつくろう。

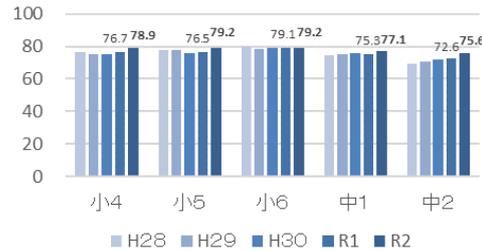
11時までに寝ている児童生徒の割合



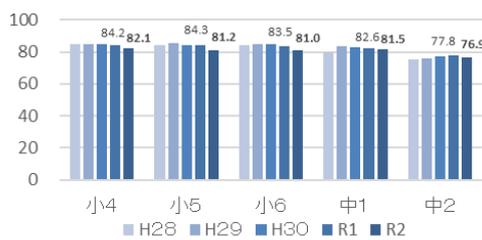
朝ごはんを毎日食べている児童生徒の割合



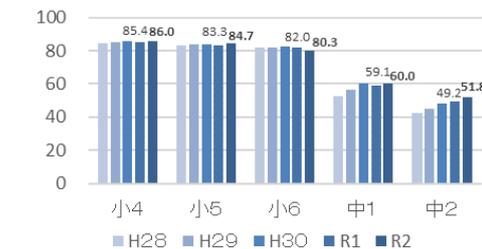
家族と対話している児童生徒の割合



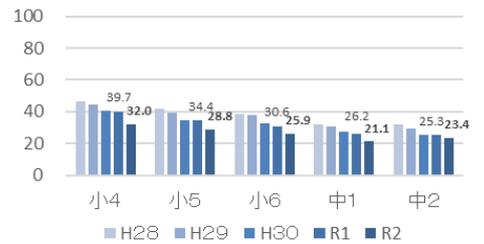
前日の学校の準備をしている児童生徒の割合



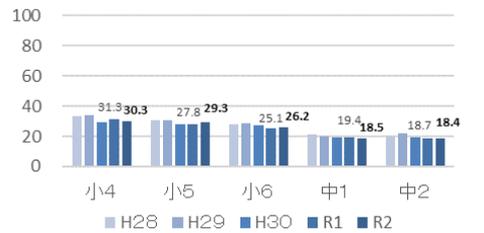
家で宿題をしている児童生徒の割合



一日のテレビゲーム等の使用が1時間未満の児童生徒の割合

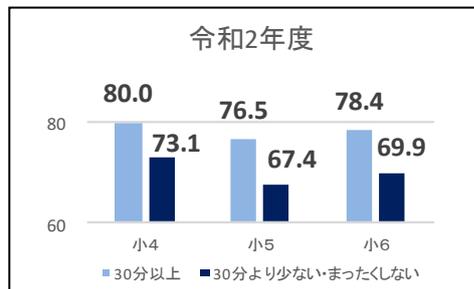


30分以上読書している児童生徒の割合



- 一日のテレビゲーム等の使用が1時間未満の児童生徒の割合が年々減少しています。また、読書時間も年々減少傾向にあり、課題となっています。
- 低学年のうちからテレビゲーム等の使用の約束を決めて、家庭で対話をする時間や、読書に親しむ時間をもつようにしましょう。約束は定期的に見直し、子どもと共に生活をふりかえることが大切です。

「月曜日～金曜日の平日に家で、一人で1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間は含まない）」という質問に、30分以上と答えた児童と30分より少ない・まったくしないと答えた児童の平均正答率を比べたグラフ



家で30分以上勉強をする場合としない場合では正答率に差があります。

#### 大切なことは、家での過ごし方を「自分で決める」ことです

- 「宿題の時間」や「ゲームやインターネットの時間や使い方」等、家でどのように過ごすのかを自分で計画し、自律的に生活することが大切です。
- 教育委員会では、睡眠教育を軸とした「7のつく日は7つのやくそく」の取組を推進するとともに、「堺市立学校『スマホ・ネット ルール5』」の啓発を進めます。ご協力よろしくお願ひします。